

平成28年度

研修集録

第 31 号

秋田市立秋田商業高等学校



正解のない「問い」

校 長 佐 藤 武

今年度は、「組織で取り組む授業改善～生徒の発想力を高めるために～」をテーマに、研修部主導のもと授業改善に取り組んできました。2回の校内授業公開週間や、アクティブラーニングの第一人者である産業能率大学小林昭文教授を講師とした職員研修により、着実に先生方の授業に変化が現れてきています。講義一辺倒の授業から脱却を図り、ペアワーク、グループ学習、ディベートやICT機器の活用など、1時間の授業の中に生徒の活動場面が多くなり、生き生きと授業に参加している姿が多くなってきました。今後も引き続いて、生徒が主体的に学習に参加する授業に取り組んでいきたいと思っております。

さて、高大接続システム改革により、高校教育、大学教育、大学入試が大きく変わろうとしています。2019年には「高等学校基礎学力テスト（仮称）」、2020年にはセンター試験に代わり、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が新たに実施される予定です。この教育改革に対して、高校教育はどのように変容すべきでしょうか。石川一郎香里ヌヴェール学院学院長は、その著書「2020年からの教師問題」（ベスト新書）で、教育改革に向けて現場の教師はどのように変容していく必要があるのかを論じていますので、その一部を紹介します。

2020年に向けて教育改革が進む中で、学校現場で生徒に身につけさせる力は、①課題解決に向けて協働する力、②自分の考えを表現する力、③クリエイティブな思考力です。①は、たとえ180度異なる意見が同時に存在したとしても、互いが納得できる最適な答えを見つける力です。②は、「あなたはどのように考えますか？」という問いに、自分の考えを持った上で、それを他人にわかる形で表現する力です。③は、AIの発達に伴い、AIが人間の頭脳に取って代わる部分が多く出てきます。そのときにいたっても、AIに取って代わることのできない、人間にこそ求められる能力です。これらの力を身につけさせる方法の一つとして、次のような「正解のない『問い』」に取り組む必要があります。

国語：夏目漱石の『こころ』を題材に、「もし、あなたがKだったら、先生の発言に対してどのような行動を取るのか」。

日本史：「江戸時代の三大改革と田沼意次の政治を比較し、あなたであればどのような経済政策を取るか」。

このように、模範解答のない「問い」を設定し、生徒個人が自分なりにどう考えるかを議論させます。「正解のない『問い』」を扱う授業では、教師と生徒の上下関係はなく、互いに高め合う関係であり、教師にはプロデューサーの役割、つまり「人の能力をうまく引き出す」ということが求められます。生徒同士活発に意見を出し合える場を創り出すこと、生徒が突き詰めて考えたいくなる「正解のない『問い』」を出せる力を持つこと、生徒の反応に応じてより深く考えられるような「問い」を返すことなどです。このためには、自分の専門教科はもちろんのこと、専門教科以外のことも、常に学ぶという姿勢、社会の動向にも常にアンテナを立てておくなど、教師自身もアクティブラーナーとなる必要があります。授業についても、教師主体の「TEACHING」から、生徒主体の「LEARNING」に転換することが求められています。

石川氏は、「教育」とは何か、「教える」とは何か、「教師の役割」とは何か—新たな時代に向け、教師に突きつけられている「問い」は、このような「正解のない『問い』」であるかもしれないと結んでいます。社会に出るための訓練をする学校が、社会の変化とともに変わっていくのは当然です。学校が変わるためには、現場に立つ教師が変わることが必要です。変化の激しい社会で逞しく生き抜く人材を育てるために、先生方のさらなる研鑽を期待し、巻頭言といたします。

目 次

◎巻頭言	正解のない「問い」	校 長	佐 藤 武	
I	研究発表			
◇	上級簿記検定取得への挑戦とアクティブ・ラーニング	商 業 科	石 田 雄 哉	…… 3
II	指導主事訪問（研究授業）			
◇	日程・訪問指導主事		教 務 部	…… 8
◇	研究授業の学習指導案（理科）	理 科	千 田 義 人	…… 9
◇	研究授業の学習指導案と協議会（保健体育）	保健体育科	横 山 秀 和	…… 10
			佐 藤 寛 仁	
◇	全体協議会		教 務 部	…… 14
III	校内研修の記録			
◇	第1回校内職員研修			
	「アクティブラーニング（能動的学習）型授業の意義・効果・始め方 ～キャリア教育・生徒指導等を教科科目授業に埋め戻す～」		研 修 部	…… 16
◇	第2回校内職員研修			
	「心と体の健康講座～体感メンタルトレーニング&エアロビクス」		研 修 部	…… 25
IV	勝平中学校との学校間連携			
◇	勝平地区小・中・高・特別支援学校連携協議会参加報告		研 修 部	…… 31
◇	勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会参加報告		研 修 部	…… 33
◇	勝平中学校2年生による商業科目授業体験	商 業 科	佐 藤 和 佳	…… 35
			柏 谷 亜紀子	
V	授業公開週間			
◇	実施報告		研 修 部	…… 41
◇	参観の記録			
	「『素晴らしい！』の一言が素晴らしい授業を創る」	商 業 科	保 坂 徹	…… 52
VI	報告			
◇	ビジネス実践『AKI SHOP』	商 業 科	櫻 庭 咲 子	…… 55
◇	平成28年度キッズビジネスタウンの取り組み	地歴公民科	今 聡	…… 57
◇	ESDを意識した環境教育の試み	英 語 科	大 堤 直 人	…… 59
◇	思考力を育てる国語の授業の試み・NIE研究会参加報告			
		国 語 科	近 野 祥 子	…… 61
◇	高等学校教職5年経験者研修講座報告	数 学 科	佐々木 絵 里	…… 67
◇	高等学校授業力向上研修講座（8年研）を受講して	商 業 科	小 西 一 幸	…… 68
◇	高等学校教職10年経験者研修報告 10年を振り返って			
		英 語 科	菅 生 あずさ	…… 73
◇	高等学校教職10年経験者研修報告 ～これまでの10年を振り返って～			
		商 業 科	櫻 庭 咲 子	…… 78
◎	平成28年度研修対象者・研究会等参加者一覧			…… 84
◎	編集後記		研 修 部	

上級簿記検定取得への挑戦とアクティブ・ラーニング

商業科 石 田 雄 哉

今年度、8月に島根県松江市「くにびきメッセ」において全国商業教育研究大会が行われ、そこで分科会「会計分野」において発表を行った。この文章は、発表資料に基づいた研究の概略である。

I はじめに

秋田県は全国トップクラスの少子高齢化県であり、生徒数も年々減少し、学校の統廃合も進んでいる。単独で商業科を設置している学校は、市立である本校のみとなり、県立では学科設置校が5校だけである。商業科存続の危機的状況にあり、本県教員にも危機を感じている者も多いが、なかなか挑戦の一步が踏み出せない。このような状況から、自分が挑戦している上級簿記への取り組みを整理し、その中で感じたことをもとに、挑戦し続ける生徒を育成するためにはどうしたらよいか、合格者を出すためにどのようなことが必要になるかという点を考えていくことにした。

II 発表のテーマ設定について

1. アンケート結果

科目履修校では、生徒の関心意欲が低いことや学力の問題、単位数やカリキュラム上の制約から、全商簿記検定3級から2級の指導で精一杯であることがわかった。学科設置校で全商簿記検定1級や日商簿記検定2級を受験している学校でも、上級簿記となると現行の授業時数だけでは不足することや、挑戦するにしても人数が少数になりすぎて授業として展開できないということであった。

またアクティブ・ラーニングについては、特定単元での取り組みや、講義式に $+\alpha$ でグループ学習などを取り入れる形式が多いようであ

る。また、簿記は一人ですべきものであり、アクティブ・ラーニングには向いていないという意見もあった。

生徒アンケートからは、生徒達がやりがいを感じるのは、「検定に合格したとき」よりも「理解が進んだとき」ということがわかった。検定を目標にすることで、逆に生徒に劣等感を感じさせている面も感じられた。また、検定が目的化し、検定後にモチベーションが下がるという現象も見られた。

2. テーマ設定

上級簿記に挑戦する生徒を育てるには、授業の理解度を高め、簿記を楽しみと感じさせ、より高い目標へ向かわせることが大切になる。そこで、次期指導要領の改訂でもキーワードの一つとなっているアクティブ・ラーニングに注目した。アクティブ・ラーニングを会計分野に取り入れることで、どのような効果が出るか、上級簿記の挑戦にもアクティブ・ラーニングは活用できるものなのかを研究してみたいと考え、以下の三点を仮説として立て、検証することにした。

- ①上級簿記検定取得に向けた指導は、仕組みを整えれば十分可能である。
- ②アクティブ・ラーニングは会計分野でも取り入れることができ、意欲の向上や深い学びを達成することができる。
- ③アクティブ・ラーニングは上級簿記に必要な資質、能力を育成するためにも有効である。

III 上級簿記検定への挑戦

1. 全国の上級簿記資格取得状況

全国の上級簿記の取得状況を確認したとこ

ろ、平成26年度の実績で日商簿記検定1級合格者が77名、全国経理学校協会主催簿記検定上級合格者が48名であった。対して、日商簿記検定2級の合格者は5,941名であり、2級から1級へはやはり大きな壁があるようであった。また、日商2級の取得率が秋田県と同程度の都道府県でも、上級簿記の合格者を輩出している都道府県があり、同じ東北では、宮城県や福島県で合格者が出ている。また、合格者はほとんどの都道府県で、5名未満であった。

2. 上級簿記合格に必要な要素と対策

上級簿記では、出題内容が応用的なもので、数年間の過去問を見ても同様の問題はほとんどないことから、「パターンの解き方」や「過去問を繰り返し」では全く通用しないと思った。幅広い分野の知識・会計処理方法を頭に入れ、その背景の理論的理解や法的理解を理解することも必要となる。いかに柔軟な思考力、応用力を付けていくかが、合否を分ける大きなポイントであると感じた。そこで、上級簿記へ挑戦するために次のような体制を整えた。

(1)幅広い知識

まずは当然のことだが、上級簿記は幅広い会計に関する知識が必要となる。財務会計Ⅱ、管理会計の教科書だけでは扱っていない内容もあるため、市販のテキストを購入し、授業で可能な限り全範囲を学べるよう進めた。約1年をかけ、2年生7単位、3年生4単位の中で指導を進め、授業内で可能な限りそれぞれの分野を指導した。

(2)短時間で解く技術

上級簿記検定は、試験時間で非常に多くの会計処理を行う必要があるため、知識だけでなく効率的に情報を整理・計算・解答する技術が必要となる。そこで、仙台大原簿記情報公務員専門学校に依頼し、定期的に講習会をお願いした。重要な分野の解き方から試験対策まで、非常に協力的であった。私自身も一緒に受講することで力が付き、普段の授業でも活かすことができた。

(3)深い理解と応用力

上級簿記は、応用した出題がほとんどである。そのため、一つの処理についても、会計原則や考え方、複数の処理方法の深い理解が必要となり、はじめて見るような表現・内容であっても柔軟に取り組む力が必要となる。そこで、地域の実務者で、大学で簿記・会計講師を行っている鈴木寿氏に協力を願い、月に2時間程度補習を行っていただいた。鈴木氏の指導は問答式で、生徒の疑問を糸口にして深いところまで質問を繰り返し、会計の本質や考え方に迫るものであり、深い学びが行われていた。

(4)主体的に問題に取り組む意欲とへこたれない精神力

また、上記の対策に対してしっかりと取り組み、さらに自分で学習し、見たことがない問題でも挑戦し続ける精神力が必要となる。おそらくこれが最も重要だと思う。教師の側からは、将来の目標を考えさせ、様々な支援を行うことで気持ちが離れていかないよう、声かけ、叱咤激励を行った。また、今回目指す生徒が一人ではなく、複数いたことも重要であった。仲間がいたことで、苦勞を共有し、互いに教え合い、同じ目標に向けて頑張り続けることができたようである。

以上の四点について、次期学習指導要領改訂に向けて、教育課程企画特別部会における「論点整理」によると、育成すべき資質・能力の三要素が「知識に関するもの」「スキルに関するもの」「情意に関するもの」の三つに大きく分類されている。これに照らし合わせると、「知識に関するもの」として(1)および(3)、「スキルに関するもの」として(2)および(3)、「情意に関するもの」として(4)を整理することができる。上級簿記へ挑戦することは、この三要素に合致していた。

4. 受験体制

日商簿記検定は6月、11月、2月の年3回実施されているが、1級が実施されているのは、6月と11月であり、2月検定では実施されな

い。全経簿記については、5月、7月、11月、2月の年4回実施されているが、上級は7月と2月でのみ実施されている。

このことを踏まえ、生徒2名が2年生2月の全経上級に挑戦し、それを経て6月の日商1級に挑んだ。また、7月の全経上級にも申し込み、資料作成時点ではそれに向けて学習している段階である。

IV アクティブ・ラーニングと簿記

1. アクティブ・ラーニングの定義

中央教育審議会答申や次期学習指導要領改訂に向けての教育課程企画特別部会の「論点整理」、文部科学大臣メッセージ「教育の強靱化に向けて」などをまとめると、アクティブ・ラーニングの定義については、決まった型があるわけではなく、知っていることをどう使い、どのように社会に関わっていくかを深い学びや対話的な学び、主体的な学びを通して育成しようという学習過程の質的改善ということになる。上級簿記を目指すにあたって重要と考えている要素でも重なる部分も多く、アクティブ・ラーニングによって上級簿記に必要な能力を育てることができるかもしれないと考えた。教員アンケートでは、会計分野はアクティブ・ラーニングにはそぐわないと考えられる意見もあったが、まずは実践することにした。

2. 実践例

アクティブ・ラーニングを実践するにあたり、次の点に留意した。

- ・日々の授業の中で無理なく実践できるもので、継続できるもの
- ・進度などに無理が出ないもので、検定試験を受験することも可能になること
- ・簿記の学習に沿った授業が展開できるもの

簿記は「はっきりとした答え、記帳の手順がある」もので、「全員が同様の答え方」を求めるものだと考え、それを崩さない実践に取り組むこととした。そこで、上級簿記の内容を学習

している3年生と、1年生を対象に以下の四つの授業実践を行った。

(1)ペア学習（3年生財務会計Ⅱおよび管理会計）

(2)グループ学習（3年生財務会計Ⅱおよび管理会計）

(3)グループ学習（1年簿記）

(4)A L型授業（1年簿記）

特に(4)A L型授業に注目したい。これは、小林昭文氏の書籍を参考にして行った授業を指す。1学期中間考査までは従来通りの講義式の一斉授業で行い、1学期期末考査までは毎時間A L型授業を実践し、生徒の意識や成績にどのような変化が出るかを検証した。

ア. 実践内容

導入	①態度目標を示す。「相談する、質問する、教える、協力する、チームに貢献する」 ②最初の10～15分を使って、本時の学習内容についてスライドで説明する。
展開	③展開の20～25分は、生徒たちの力で、副教材の中の指定された課題を解く。その際、答えを見ても、相談しても、立って聞きに歩いても良い。
まとめ	④終了15分前になったら、7分間の確認テストを行う。（③の中から選出した問題） ⑤確認テスト後、5分程度で相互採点する。 ⑥3分で振り返りシートを記入する。（態度について、学習について、自由記述の3点）
授業後	⑦振り返りシート（確認テスト裏面）を回収し、コメントを付けて次の時間に返却する。

イ. 実践しての様子

生徒からは、「わからないところは、友達と話したり先生に聞いたりして、楽しく知ることができた」、

「人に教えたらずより自分も理解できた」「毎

回人に教えてもらっているから、理解して人に説明できるようになってきた」などの意見があった。授業を参観した教員からは、「確認テストで全員が満点を取るという目標が明確なので、取り組みが真剣」「分からなかったら分かる人に聞こうとする姿勢、分かるまで教えてようとする姿勢がクラス全体に浸透していた。」といった意見があった。

また、実践して感じたこととしては、「寝る生徒はゼロ」「細かい点を教えていなくても、自力で正しい考え方および答えを導き出す生徒がいる」といった良い点があった。反面、「雑談が多くなる生徒」「聞けない生徒」「教えられない生徒」への指導方法や、「補助簿などの帳簿の記入法にはあまり向かない」「進度が速いので、復習の時間が必要」などの課題があった。

実際の場面を考えると、就職の面接試験でも実際の仕事でも、おとなしく無口な生徒より、明るく話ができる生徒が好まれるのではないか。一人で黙々と作業するより、先輩や上司、顧客と話をすることのほうが重要ではないか。公認会計士や税理士は、さらに高度なコミュニケーション能力が求められるのではないか。簿記を一人で黙々とやることが、正しいわけではないように思えた。

V 検証とまとめ

1. 上級簿記挑戦に対する効果

アンケートでは、上級簿記の学習は大変だったにもかかわらず、半数以上がよかった、面白かったと答え、学習してよかったと感じているようである。さらに、将来的には上級簿記を受験してみたいという意識も芽生えており、意欲向上にも効果があったようである。難しいなりに、楽しさややりがいを感じ、本質や社会との関わりを意識することが多くなり、「深い学び」をしているようであった。

実際に受験した2名の生徒にはさらに追加でアンケート調査を行ったところ、難しかったが解けば解くほど自分に力がついてくる実感があ

り、挑戦して良かったようであった。また、自ら学ぶ姿勢、一緒に学ぶ仲間の存在が重要であったと感じていた。進路でも、上を目指そうという意識が芽生えたようである。

2. アクティブ・ラーニング型授業による効果

1年生の担当するクラスでは、他クラスと比較して簿記検定の必要性、授業への満足度、純粋な内容への興味関心のいずれも高い割合になった。また成績では、私が担当したクラスと他クラスの成績を比較したところ、中間考査では担当クラスが全クラス平均より約3点上回っていたが、期末考査では約5点に広がっていた。また、標準偏差においては、他クラスは中間19.6点から期末21.1点に広がっていたが、担当クラスでは中間17.8点から期末17.6点とやや小さくなっていた。

また、3年生でのペア学習、グループ学習について聞き取りをしてみると、「わからない問題があってもすぐに聞けるからうれしい」「一人で解くよりも理解しやすいと感じている」といった意見があり、相談できる状態であることで安心して学習に取り組むことができ、理解の助けにもなっているようであった。難しい内容だからこそ、相談できることが大きなプラスとして働いているようであった。

3. 仮説の検証

「仮説1：上級簿記検定取得に向けた指導は、仕組みを整えれば十分可能」という点では、確かに多くの壁はあるが、挑戦してくれる生徒も育つし、協力してくれる人も多数いることがわかった。努力と工夫で体制が築けるとわかった。「仮説2：アクティブ・ラーニングは会計分野でも取り入れることができ、意欲の向上や深い学びを達成可能」という点では、十分取り入れることが可能だと確認できた。単純なペア学習やグループ学習だけでも、プラスの効果はあるし、A L型授業のように少し工夫をすることで大きな効果が得られる方法もあった。理解の早い子は教えることでより深く理解し、コミュニケーション能力が育ち、理解が遅い子でも

コミュニケーションをとる機会が増え、質問しやすいおかげで理解する可能性が高く、全体が助け合う雰囲気ができることで、全体が活性化していくのは非常に魅力的だと感じた。「仮説3：アクティブ・ラーニングは上級簿記に必要な資質、能力を育成するためにも有効」という点では、まず一つは、共に同じ目標を目指す仲間意識が芽生えやすいこと、二つ目に教え合うことで、得意な内容はさらに深まり、弱点の克服も早い、三つ目に一人一人が自ら学ぶ姿勢に変わっていくといった3点が感じられ、有効であると感じた。上級簿記への挑戦もアクティブ・ラーニングの実践も、これからの社会に必要な資質・能力を生徒に身に付けさせる有効な題材であることが確認できた。

4. まとめ

この発表が、これから上級簿記やアクティブ・ラーニングに取り組もうとしている学校の何かのヒントになればと思っている。すでに実践している学校にとっては稚拙な内容であったことをお詫びしつつ、これからの学校にとっては挑戦する勇気がわき、前向きな取り組みが増えてくれればと思う。

平成28年度 指導主事訪問

教 務 部

1 期日：平成28年 6月30日（木）

2 訪問指導主事

秋田市教育委員会学校教育課主席主査	指導主事	渡邊 久人 先生
秋田市教育委員会学校教育課 主査	指導主事	鈴木 公平 先生
秋田市教育委員会学校教育課 主査	指導主事	北嶋 力 先生
秋田県教育庁高校教育課 指導主事（理科）		能美 佳央 先生
秋田県教育庁保健体育課 指導主事（保健体育科）		野中 仁史 先生

3 日程

時 間	内 容	授 業
9:00～ 9:50	1 校時	総 学
10:00～10:50	2 校時	総 学
11:00～11:50 11:20～ 11:30～11:50	3 校時 指導主事来校 学校経営説明〈校長室〉	5 校時の授業
12:00～12:50	4 校時 校内授業参観	4 校時の授業
12:50～13:30	昼食〈校長室〉	
13:30～14:20	5 校時 研究授業（理科・保健体育科）	1 校時の授業
	物理基礎：落体の運動 ：千田義人先生 ：3年ACE組（選択C）〈物理室〉	
	体 育：器械運動（マット運動） ：横山秀和先生・佐藤寛仁先生 ：1年EF組 〈格技場2階〉	
	①他のクラスは通常授業。 ②授業のない先生は参観します。 ③研究授業の様子はビデオ撮影します。	
14:20～14:40	生徒：清掃活動、放課	
14:45～15:35	各科協議会：理 科〈語学室〉 保健体育科〈会議室〉 ①全員の先生がどちらかの協議会に参加します。 ②必要に応じて撮影したビデオを参考にできます。	
15:45～16:30	全体協議会〈会議室〉 ①指導助言 秋田県教育庁高校教育課 ②総評 秋田市教育委員会学校教育課 ③質疑応答 ④校長より	

理科〔選択C 物理基礎〕学習指導案

日 時：平成28年 6 月30日（木） 5 校時

場 所：物理室 クラス：3 A C E

授業者：千田義人

教科書：物理基礎（東京書籍）

1 単元名 1 編 物体の運動とエネルギー 2 章 速度・加速度 2 直線運動の加速度

2 単元の目標

基本的な物理現象を実験を通して数値化し、数学的处理によって身近な現象について考察させる。

3 指導計画 2 直線運動の加速度 5 時間（本時 5/5）

4 単元の評価規準

A. 関心・意欲・態度	B. 思考・判断・表現	C. 技 能	D. 知識・理解
速度が変化する運動について興味を持ち、意欲を持って学習に取り組む。	速度が変化する運動について、 v - t グラフから加速度を求め、実際の運動を考察することができる。	加速度運動について v - t グラフを作成し、位置や速度を式で表すことができる。	速度や加速度についてその語句の意味を理解し、計算により求めることができる。
本 時	本 時		本 時

5 生徒の実態

男子12名、女子 9 名、計21名。本校全体の特質として運動部に所属する生徒が多く、大会公欠なども多いため学習時間の確保に苦慮している。選択科目であるが進路で直接利用する生徒はきわめて少なく、また数学の基本能力差は大きい。

6 本時の計画

(1) ねらい 「歩く」動作について v - t グラフより読み取り、分解して解析・発表する。

(2) 展 開

展開	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5 分	・既習事項の確認。 ・本時のねらいと内容説明。	・前時の内容の確認。 ・本時の内容を確認。 ・学習プリント配布。	・本時の内容に関連づける。 ・本時の内容について興味を持たせる。	
展開 40 分	・歩き方と v - t グラフの関係を考察する。 ・ v - t グラフから、実際の運動を読み取る。 ・「歩く」動作を解析した結果を発表する。	・自分の v - t グラフと、他人の v - t グラフを比較して、類似点や相違点を見つける。 ・ v - t グラフから、各時間での実際の運動を考察する。 ・班ごとに、「歩く」動作についての考察結果を発表する。	・歩幅や周期に注意して考察させる。 ・歩き方により、 v - t グラフに違いが現れることを説明する。 ・加速、減速、停止しているところを見つけ出させ、歩く動作のどこに該当するかを考察させる。 ・ v - t グラフと実際の運動を、関連づけて発表させる。	・複数枚の v - t グラフから、類似点と相違点を考察できたか（B）。 ・ v - t グラフから、速度の変化を理解できたか（D）。 ・大きな声で、科学的に発表できたか（B）。
まとめ 5 分	・本時のまとめ ・次時の予告	・本時の内容を確認し、プリントを完成する。 ・次時の内容を確認。	・実験レポートをしっかりとめさせる ・本時の内容を踏まえて、次時にやることを伝える。	・本時の内容をきちんとまとめているか（A, D）。

保健体育科「体育」学習指導案

日 時：平成28年6月30日（木）5校時
対象クラス：1年EF組（80名）
場 所：本校レスリング場
指 導 者：横山秀和 佐藤寛仁

1. 単元名 器械運動（マット運動）

2. 単元の指導目標

- (1) 器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、意欲的に練習に取り組むなど、安全面を確保した上で自主的に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）
- (2) 積極的に器械運動を実践するために、自己の課題に応じた取り組み方を工夫している。（思考・判断）
- (3) 自己の能力に適した技を身につけ、滑らかに安定した技を行うことができる。（技能・表現）
- (4) 技の名称や行い方、より上手く行うための方法や発表会の仕方を理解している。（知識・理解）

3. 生徒と単元

(1) 単元観

本校にはレスリング場が2面あり、マットを準備しなくてもマット運動をすることができるという環境の良さがある。運動部員も多いため、体を使うという点において、技術の高い生徒が多い。しかし、近年柔軟性の低下が見られ、自分の体を上手に使えない生徒が目立っており、他競技の事故防止も見据え、自身の体を上手に動かせることを目指した授業を展開する必要がある。

(2) 生徒観

男子32名、女子48名、合計80名の生徒である。比較的運動部に所属しており、運動に関する興味関心は高い。しかし、その中でも技術による差は大きいため、配慮する場面も多くある。

(3) 指導観

マット運動は、できるとできないがはっきりする部分がある。その中で、自己の目標を設定させ、現状よりもできるようになる喜びを味わうだけでなく、互いが協力する場面を作り、生徒間の交流も図りたい。

4. 単元の指導と評価計画

時	学 習 内 容	教師の指導・支援	関心・意欲・ 態度（ア）	思考・判断 （イ）	技能・表現 （ウ）	知識・理解 （エ）
1	オリエンテーション	・授業計画の説明 ・授業における注意点 ・ストレッチの実践	授業に参加しようとしている（観察）			
2	基本動作の確認と技を知る	・前後転の基本確認 ・技の説明と助言				技の名前を理解している（観察）
3	ロンダート・開脚後転	・ロンダートのやり方説明 ・ロンダートから開脚後転へのつなぎ方の説明	意欲的に取り組んでいる（観察）			

4	倒立前転	・グループ活動のやり方説明 ・補助の説明や助言		補助のやり方を考え、安全に取り組んでいる（観察）		
5	側転及び自由技	・側転とロンダートの違いを説明 ・自由技における注意点の説明				ロンダートと側転の運動の違いを理解している（観察）
6	自由技、全体の流れ確認	・練習場所における注意点の説明			目標に応じた技能ができている（観察）	
7	発表会	・発表における注意点の説明			技能に応じた技ができている（実技）	

5. 本時の計画および指導過程

本時の計画 （4／7 時間）

本時のねらい

- ・補助のやり方を考え、安全面に配慮する。（イ）

時	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	評価の観点と方法
導入 12分	・本時の説明		・本時の授業内容を明確に提示する。	
	・準備運動及び導入運動	・体操と柔軟を行い、ペアでの運動を行う	・怪我のないよう、お互いが協力して行えるよう助言する。	
展開 35分	・前時の復習	・ロンダートから開脚後転を行う	・前時の動きを確認させる。	
	・倒立前転の説明	・実技を見せ、倒立前転のポイントを理解する	・一つ一つ細かいポイントでの動きを提示する。 ・補助における注意点を提示する。また、安全面についての説明を行う。	
	・グループに分かれて倒立前転の練習	・グループを作り、互いに補助や助言をしよう	・3～5人程度のグループを素早く作らせる。 ・安全面が確保できるよう、注意喚起を行う。 ・より技術が向上するための助言を行う。	・補助のやり方を考え、安全面に配慮している。（観察）（イ）
整理 3分		・発表における注意点の説明	・互いに意見を出せるよう助言する。 ・ストレッチを促す。	

指導主事訪問（研究授業）保健体育協議会

保健体育科 横山 秀和
佐藤 寛仁

●授業担当者より

- ・倒立前転を行う際に負担がかかる上腕から肩関節にかけてのストレッチを中心的に行い、怪我の予防に努めた。また、導入の運動も、その日の運動を見据え、つながりのある動きにするよう心がけた。
- ・自分が技能を高めるだけでなく、補助の仕方を身につけさせて、グループの生徒同士が教え合う場面作りを設定した。

●授業参観者から

<安全面>

- ・単純な準備運動ではなく、特に負担のかかる部位を重点的にストレッチしていて安全面に配慮していた。
- ・眼鏡、腕時計、Tシャツをズボンに入れるなどの徹底が必要。

<生徒の様子>

- ・積極的に動いていて、感心した。楽しそうだった。
- ・運動部中心に能力の高さが感じられた。
- ・最後の見本を全体に見せる場面では、できる人もできない人も、一体感を感じられる瞬間であった。
- ・生徒同士が教え合っている場面が、まさしくコミュニケーション能力育成だと感じた。
- ・換気扇の音もあったが、生徒の発言が聞こえにくかった。

<授業内容>

- ・授業の内容が最初の段階で明確に指示されていて、生徒の聞く態度も立派であった。
- ・限られたスペースで80人を効率的に動かしていた。また、能力別にマットを有効活用していた。
- ・生徒が教え合ったり、最後は生徒の発言で終わるなど、生徒主役の授業であった。
- ・2人の授業担当者の役割が明確であり、連携がとれていた。

<その他>

- ・「倒立前転ができると～などのいいことがある」という発言があれば、動機付けに役立つのではないか。

●質疑応答

Q. 暑さ対策などで工夫していることはあるか。

A. 換気扇や扇風機などで対応している。特に暑いときは運動量の調節をしている。

Q. 今回はどのようにしてグループを作ったのか。

A. 今回は技量や体格などはあまり考慮せず、仲のよい生徒同士でグループを作成した。教え合う場面を多く作りたかった。

●指導主事より指導助言

野中仁史指導主事（秋田県教育庁保健体育課）

<授業全体について>

体育の中では、人気が低い器械運動の授業であったが、80人の生徒が積極的に楽しそうに授業に臨んでいた。当たり前ではあるが、話を聞く態度・靴の並べ方・全員が学校指定のジャージを着るなど、しつけが行き届いていると感じた。しつけ教育が社会教育であり、キャリア教育の一環として授業が展開されていた。男女共修で行われており、性別・能力・障害等の壁を越えて生きていく生徒が育成されているように感じた。

<生徒について>

全てのグループ内で教え合う場面があり、目的意識の高さを感じた。レベルの高い技能を求めだけでなく、精度を高めるという視点での指導もしていただきたい。暑さに弱い生徒への対応についても十分考慮してもらいたい。

<指導案について>

卒業後にスポーツに関わっていく生徒の姿を考えながら、教師側の頭の中にある引き出しや計画を紙面にしっかりまとめることが重要である。思考・判断を評価するときは必ず書かせることが必要である。

<場面の工夫について>

今回のレスリング用のマットでは難しいが、前転や後転ができない生徒のために、緩やかなスロープを作って回転しやすいようにする。ビデオ撮影し、その場で見せる工夫もある。

北嶋力指導主事（秋田市教育委員会学校教育課）

<授業全体について>

保健体育科の教諭だけでなく、各教科の先生が参加する協議会は初めてだが、各教科の先生方の視点で話をされていて、お互いに参考になることがあった。よい動きのポイントが指導されており、グループ内での教え合いにつながっていた。

<指導案について>

日本全国で同水準の教育をすることが目的である。

（中3～高1） 自主的：やるべきことが決まっていて、それに取り組もうとすること。

（高2～高3） 主体的：やるかやらないか判断し行動すること。

<場面の工夫について>

先生以外の指導、生徒が自ら学べる場を作る。ホワイトボードに技のポイントをまとめたり、ビデオを活用したりすることが有効である。

<その他>

私は「倒立できると格好いい父親、母親になれるよ」という言い方をしています。

指導主事訪問全体協議会

日時：平成28年6月30日（木）15:45～16:30

場所：会議室

1 指導助言 秋田県教育庁高校教育課指導主事 （理科）能美 佳央 先生

本校は全県総体、東北選手権大会で上位へ入賞しており、中国地方インターハイにも7種目が出場し、レスリングや卓球をはじめとする様々な種目で入賞が期待されている。昨年、多くの県民に感動を与えた野球部の活躍にも多くの県民が注目している。今後も本県高校スポーツの牽引役として一層の活躍を期待している。

本日のために授業研究、日程の調整、きめ細やかな対応をしていただき感謝している。

各科の協議会では教科を越えて授業に対するいろいろな意見が述べられて有意義なものだった。今後も授業公開週間を設定し、よりよい授業づくりに組織的に取り組んでほしい。

全体会ではカリキュラムマネジメントという今後重要性が一層増してくる教育活動について、秋田県の教育指針や国の教育改革の方向性に触れながら話していきたい。

今の子供たちはグローバル化と情報化が急速に進展し、本県においても少子高齢化、人口減少問題など将来不透明な時代に向かっていかないといけない。そのような時代を生き抜くために必要な諸能力をはぐくむ教育を生徒に対して行っていかなければならない。このような課題を背景に新しい学習指導要領のあり方が検討されている。

本県においても4月から第7次秋田県高等学校総合整備計画が始まった。キャリア教育の視点に立った社会を生き抜く力と高い志を育てる教育活動、活気に満ちた魅力ある学校作りを大きな柱として計画が策定されている。

計画の策定に当たって重点が置かれている「はぐくむ人材」について

- ①学び続けこれからの社会を担う気概を持つ人材
- ②地域の課題に積極的に取り組む人材
- ③グローバルな視点を持ち、新しい価値を創造できる人材

こうした人材の育成を行うために活気に満ちた魅力ある学校作りに取り組む必要がある。学校が社会や世界と接点を持ち、多様な人々と繋がりを保ちながら学ぶことができる開かれた環境となることが不可欠となっており、求められている。

新しい学習指導要領に向けて改善点や方向性がまとめられた文部科学省の中央教育審議会教育課程特別部会論点整理に、生徒たちの学校生活の核となる教育課程の役割をとらえ直す必要があり、社会に開かれた教育課程を作成することが鍵であると述べられている。今後一層カリキュラムマネジメントが重要になってくる。カリキュラムマネジメントとは各学校で掲げている教育目標を実現するために学習指導要領に基づいて教育課程を編集し、実施、評価、改善する営みである。マネジメントは管理職中心ではなく先生方一人一人が役割に応じて関わっていくことが重要である。

＜マネジメントの3つの側面＞

- 1) 教科横断的な視点
- 2) PDCAサイクルの確立
- 3) 教育内容と教育資源の効果的な組み合わせ

中でも教科横断的な視点が強調されている。

本校のキャリア教育は学校が地域社会や生徒に対して行うべき使命は何かという視点に基づいて高校入学から卒業後4年間を含めた7年後までを見据えたものとして計画されている。中核にはビジネス実践という秋田商業を象徴する教科横断的な科目をおいたカリキュラム構成となっている。これにPDCAサイクルを入れていけばさらに進化したカリキュラムになるのではないか。

例えば、教科横断的な視点でいえば普段の各科授業と学校内外の教育支援、例えば企業紹介と先輩講話を柔軟に組み合わせて指導計画を作成（Plan）、アクティブラーニング的な視点から多様な教育実践を各教科でつなげていく（Do）、それらの学習を多面的に評価する評価書を考える。例えば定期考査や基礎学力向上テスト、各種技能検定を使えないか到達度をはかりチェックしながら生徒たちに反映してアクションしていく。

カリキュラムマネジメントで大切なのは先生方一人一人が主体となって活躍することである。生徒にとって各授業は1つの部品でしかなく、各教科、部活動、学校行事を通して横断的に総合的に学んで身につけていく。秋商キャリア教育ではぐくむ資質・能力を普段の授業で意識すると生徒にとっても各教科の内容や学びが分断されずに一体となって、教育実践がさらに効果を高めていく。国や県が向かっていく方向性よりも秋田商業のキャリア教育が進んでいる。

最後に10月に行われる産業教育フェアでは安保夏海さんが生徒実行委員長を務めてもらう。来年度の全国大会でもキッズビジネスタウンやAKIショップなどの産業教育フェアの中核となる秋田の顔となる企画を運営してもらうことになっている。

2 総評 秋田市教育委員会学校教育課指導主事 主査 鈴木 公平 先生

1. 参観した授業を通しての授業改善について

授業参観の感想から

①本時の目標、ねらいについて

どの教室でも本時の目標、ねらいが明示されていた。学校としての組織的対応が伺えた。ねらいは、生徒にとってこの時間に主体的に学ぶために掲示されるものと考え。また、教師にとってこの時間の目標課題を達成するためのもの。この1時間で身につけさせたいものはこれだというものをきちんと持った上で生徒たちにねらいを提示していかなければならない。今日の授業でもたくさん提示されていた。このまま継続していただきたい。

2. 次期学習指導要領改定に向けた動向についてのキーワード

- ・ 共通性の確保 ・すべての生徒に確実に ・基礎学力テスト
- ・ 言語活動の充実
- ・ 表現力を重視しがちだが、思考判断をして自分で考えたことを表現する力
- ・ 学習形態の工夫（グループでの話し合い、一人ひとりに自分の考えを持たせてから話し合いその上で話し合わせる、直接的意見を述べさせる）

第1回校内職員研修

「アクティブラーニング(能動的学習)型」授業の意義・効果・始め方 ～キャリア教育・生徒指導等を教科科目授業に埋め戻す～

講師：産業能率大学 経営学部 教授
河合塾教育研究開発機構 研究員
元・埼玉県立越ヶ谷高等学校教諭
小林 昭 文 氏

1 概要

平成28年9月30(金)

14:50～15:40 模擬授業(選択C「物理基礎」)(場所:物理室)

16:00～16:50 講演会 (場所:会議室)

2 模擬授業

【態度目標】しゃべる、質問する、説明する、動く、チームで協力する、チームに貢献する

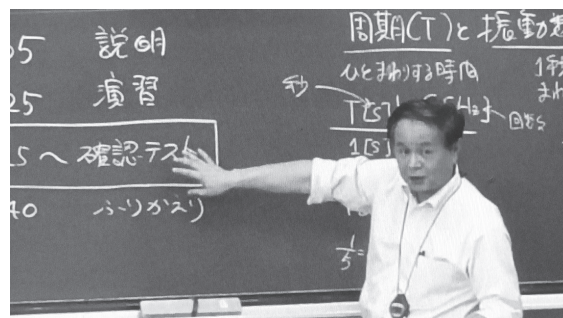
【内容目標】理解すること

(1)〈用語を理解する〉波、媒質、波源、単振動、周期、振動数

波形、変位、正弦波、山、谷、波長、位相、同位相、逆位相

(2)〈イメージを描く〉波の速さ

$$v = \frac{\lambda}{T} = f \lambda$$

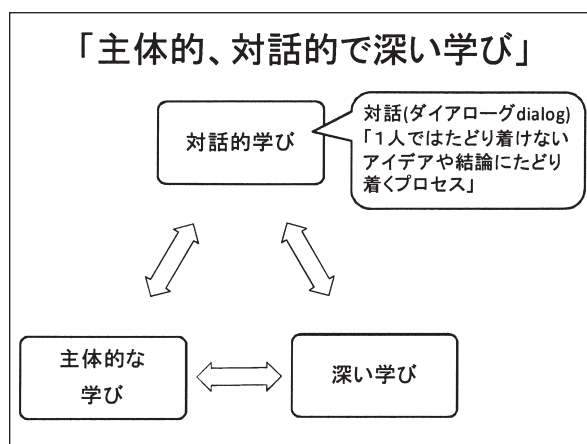


3 講演会

アクティブラーニングという言葉の定義は「学習者にアクティブラーニングが起きることを含むすべての授業形式」、形式上の縛りは全くない。座席をこうしなければならない、ペアワークをさせなければならない、講義をやってはいけない等の縛りは全くなく、子供たちにアクティブラーニングが起きればよい。極端に言うとも100%ワンウェイの授業でなければアクティブラーニング型授業と言っていい。100%ワンウェイの授業とは、40人を50分間微動だにさせず、先生が50分間しゃべり続けなければならないわけだから、いくら謙遜して「俺なんかワンウェイ」とおっしゃっていてもできやしない。理論的にはどんな授業もアクティブラーニング型授業だといってもいいと思う。ただし、そのままでもいいわけでもないで、少しずつアクティブラーニングができる時間を増やしていくところから気軽に初めてもらうことが大事だ。文科省の諮問の中では「アクティブラーニング」は中心の用語ではない。『課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブラーニング」)が必要です』とあり、アクティブラーニングは括弧の中である。「主体的・協働的」の方が大切です。さらに「こうした学習・指導方法は知識・技能を定着させる上でも、また子供たちの学習意欲を高める上でも効果的であることが指摘されている」とある。つまり文科省が言う「アクティブラーニング」とは、知識・技能の定着ができる授業、つまり点数が上がる授業という意味である。学習意欲を高める、子供たちが喜んで前向きになってくれる授業を「アクティブ

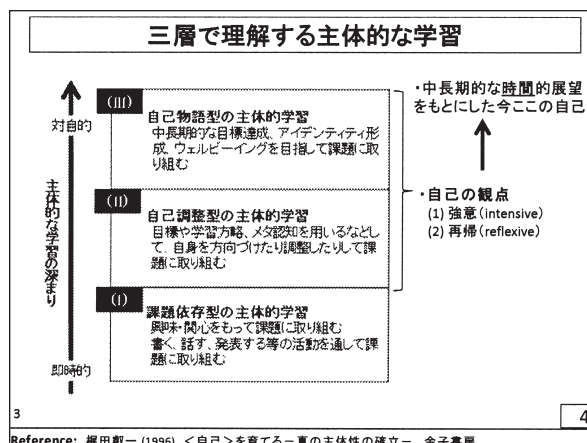
ラーニング」という。ここが大事で、ここ数年全国を回っていると多くの先生から「あれからアクティブラーニングやってみたが、やめました。点数下がるし、教科書終わらないし、生徒は大学行けないって文句言うし、親から何やってるんだと文句は来るし、だから元に戻しました。」と言われる。全国にはこのような先生が相当数いるのではないかと思う。厳しく言うとこの先生たちがやった授業は、文科省が意図する「アクティブラーニング」ではない。ペアワークやグループワークは入れてみたかもしれないが、点数が下がった、まして子供たちの学習意欲が下がったとすれば、文科省が求めているものではない。点数が下がっていい授業改善があるわけがない。「喜んでくれば、楽しんでくれば、にこやかに話してくれればいい」ではなく、「必要な知識・技能は身につけることができる」にしたい。

追加資料にある、8月1日に出た『審議まとめ（素案）』で「主体的、対話的で深い学び」という言葉が出てきた。このあと10年間、日本の学校教育はこれで進みます。文科省はこの言い方を大学にまでつなげるつもりです。「対話的学び」「主体的な学び」「深い学び」、この3つは相互に関連、補完し合って子供たちの学習を進めていくと言っているのですが、難しいのは、私たちはいったいこの3つの学びのどこに働きかければいいのかということだ。たとえば「主体的な学び」に直接働きかけて、おまえたち主体的にやれよと言ったとたん、主体的な学習は破壊されます。先生にしかられるから主体的にやらなきゃいけない、と思った途端に主体的じゃなくなる。ものすごい矛盾です。「深い学び」もなかなか難しい。そこで私は長年の経験から「対話的な学び」を上手に促進するしかないと思っている。



先ほど皆さんに授業を見ていただきましたが、私、教室の中をうろうろしてました。個別に生徒に何を言っていたかということ、「チームで協力できてますか」「質問したり教えたりできてますか」「困ってる人見つけて手伝ってますか」と質問しています。つまり態度目標に沿って、それができていますか、という質問を出しています。質問にはおもしろい効果があり、質問されると、自動的に反射的に振り返って「さっきは自分の問題だけ一生懸命やっていたな、友達に教えなきゃ」とか「わかんなかったら友達に聞こう」という風に気づきます。そして行動が変わります。自分で気づいて行動を変えるときは、先生にしかられたりするよりもスムーズに変えることができる。先生に批判されたり、禁止されたり、しかられたりしてだと、いじけたり嫌々やったりとなるが、これが友達同士の関係のなかでうまく進んでいくと、だんだん主体的な学びに進んでいく。

以下は主体的な学習に関する理論です。最初は課題依存型の主体的学習である。これが自己調整型の主体的学習へと進み、さらに自己物語型の主体的学習となる。普通は課題依存型から自己調整型へと進まない。授業中に先生が課題を出し「早くやれ、早くやらないと放課後残すぞ」など



とおどしをかけ、いろいろやって、やらせるわけです。これは課題依存型なので授業が終わると自主的にはなかなかやらない。授業外でやらせるために、私たちはここでも課題依存型でやります。「明日までにこれをやってこい」、「10時までに出不ないと減点するぞ。」ずっとこれでやっていくと、いつまでも課題依存型で、自分でやらなくなる。

私の場合10年ほど前に、意図せずとも偶然これが起きてました。大変おもしろい現象で、さっき見ていただいた授業をやり始めて数週間たったら、3年生が私のところに来て「先生、放課後物理室開けてくれませんか」と言う。「おれいっぱい会議やってていないぜ」って話したら、「先生いなくてもいい」と言う。「何やりたいの」って聞いたら、「先生が始めたあの授業はとてもいい。ずーっとみんなでわいわいしゃべって、模造紙に落書きし、ホワイトボードに落書きをしていると楽しいし、よくわかる。だからああいう勉強を僕たちはしたい。でも図書室ではそういうことはできないので、物理室を貸してくれませんか。」そういうことか、「だったら開けっ放しにしておくから勝手にやれば」と開けっ放しにしたら、放課後20人も30人も来た。友達も連れてくるのでいつの間にか全教科科目の勉強をやっています。これが1年間続きます。2月になって3年生が自宅学習期間になると2年生がやってきて代替わりが起きる。これが私が越ヶ谷高校にいる6年間ずっと続きました。この子たちは大学に行ってからでもこれを続けていた。私の授業では課題依存型でやっていて、その後自分でやっていた。大学生になって大学院生になっても、そういうことをやっている話が聞こえてきますから、彼らの一生の学習スタイルになっているかもしれません。こんなことがなぜできたか、おそらく主体的・対話的な学びが起きていたということが大きい。対話的な学び、友だち同士で質問したり教えたり協力したりしていくことが主体的な学びを促進していくのだと私は感じています。そんなところを少し試していただけるといいのかなと思います。

成績について、進学校なので成績が下がったらとんでもない話ですが、成績は上がり続けました。選択クラスの人数も増え続けました。10年も前の話ですから、こんな授業をやっていると、実は周りでは陰口でいっぱいでした。さすがに直接私に文句を言う度胸ある方はいませんでした。校長室に怒鳴り込んだ方もいました。でも年数もたち、外部評価もだんだん上がってきて自信もついてきました。成績についてもう一つ。埼玉県では、校長会を通して毎年、センター試験の各高校の詳細なデータが職員会議で配られます。数学と英語は学校中で力を入れているので、毎日宿題が出る、しばしば普通の日でも朝の補習や放課後の補習がある。夏休み、冬休みは多くの講座が行われ生徒たちは頑張ります。一方物理は宿題を出したこと一度もありません。夏と冬の講座も6年間いるうち、最後の2年間はやめました。さっき言ったように放課後いつも集まっているので、講座もやめました。それでも成績は上がり続ける。だからこのデータ面白くて、どんどんしごいても点数上がります。でも負荷を軽くして主体的な学び、対話的な学びを促進させても点数は上がります。

質疑応答

Q：グループ活動時、周りに聞けない生徒や、雑談してしまう生徒、引っ込み思案で教えられない生徒などをどう指導していくのか。(石田先生)

A：全国を回っていて、よく聞くネガティブな話の一つがそれです。こういう授業を多くの先生が始めたおかげで不登校になった生徒がいます。文句を言ってきた生徒がいて校長先生が青ざめている、なんて話もある。方針が悪いのではない。悪いのは、こういう授業をやってください、と全国的に教育委員会を通して、我々教員には言っているが、文科大臣ないし総理大臣が全国民に

向かって話をしていない。日本は将来に向けて授業のあり方を大きく変えます。お父さんお母さんが受けたことのない授業をやっていますので、是非理解して協力してください、と文科大臣あたりが保護者に向かって説明をするべきだと思う。また、学校としては、入学式などの様々な機会に、担任や学年主任から説明することが必要だと思います。

グループ学習、グループワークを行う際に気をつけるべきことは、基本的に、グループ学習がまだできない子や、今日はできない子が必ずクラスの教室の中にはいる。そこからスタートすべきです。これからの授業はみんなで協力してやることができなければだめだから、できないやつはだめだよ、というニュアンスで学校の教育が始まったら、これは差別教育になる。まだ話をするのが苦手な子や、今日はちょっと調子が出ない子は排除することになる。まだできない子や今日はできない子が、当然一人二人はいるという前提でグループ学習をデザインするべきだ。具体的には、できない子は無理しなくてもいいですよ、外れていいですよ、というルールを設定する。

私の場合は、大きな実験テーブルが6個ある物理室でやっていました。教室の1.5倍の広さがあり、席は自由にしてくださいと言っている。そこに座るのが嫌な子もいるだろうと思い、教室用の一人用のいすと机も10人分くらい持ってきて、隙間にばらまいておきました。席は自由です。そうするとひとりぼっち席に座る子がいる。これをよしとします。他の子と協力できないなら私に聞いてもいいからね、としておく。そして後で担任を通して呼び出して面談します。これを授業中にやるのはだめです。授業中にやると恥ずかしい思いをさせる。だから呼び出して個別にやります。面談の中身は交渉です。「私の年間の授業の目的、目標に賛成してくれますか」と聞く。「100%賛成します。大人になったらできなきゃならないと思います。でも僕はできません。」と言うので、「誰かとしゃべれるの?」「A君とならしゃべれます」と言ったら、席自由だからA君の隣にいてよ」で終わりますが、「誰ともしゃべれません」となることが多い。次に私が出す質問は「私としゃべれますか」、100%イエスです。これにはコツがあり、私は長年カウンセリングをやっていたので、この質問を出すまでの間に、天気の話や自己紹介など5~6分どうでもいいような話をしています。1対1で5~6分しゃべった後で、「俺としゃべれる?」「いいえ」とは普通は言わない。なので100%「はいしゃべれます」と言う。「じゃあ、一人ぼっち席のままでいいので、一時間に一回俺となんか話そうよ、物理の話でなくてもいいからさ」って終わりにします。実際の授業中は、みんながわあわあやっている間に、「今日元気?」とか「雨に濡れなかった?」とか話をしていく。ちょっと慣れてくると、向こうの方から「先生1番どうやって解くんですか」と聞いてきます。ここで、最初は教えます。次に私は少しフェーズを変えます。「先生1番どうやって解くんですか」と聞かれたら、「お、その問題あそこにいるA君がさっき解いてたから俺の代わりにA君に来てもらっていい?」と聞くと当然「んー、」とためらいます。「んー、」と首をかしげ始めたら「俺が教えるよ」って教える。次の日は「B君に来てもらってもいい?」「んー、」と言うので、また「じゃあ俺が教えるよ」となる。これを途中で「たまには人の話聞けよ」と言ってしまうと信頼関係がなくなるので、「んー、」とか「嫌」とか言い始めた瞬間にすぐ教え始める。でも、「Cくんどう?」「D君どう?」と提案だけはしつこく続けます。ずっと空振りですが、いずれそのうち必ずイエスと言う。E君とかF君とかのところで「うん」って言います。何年もやっているからいつイエスと言うか楽しみになってきます。で教えに来てもらう。でも次の時はまた空振りします。何回も空振りしてまたヒットします。でも丁寧に同じことをやっていく。私はこれだけしかやってないですが、これを4月から始めて1学期の終わり頃には2人か3

人とはしゃべっている。つまり私がやっているのはコーディネーション。つなげること。これをさらに夏休みの後も続けていくと、12月までの間にはひとりぼっち席の子はいなくなる。3年生になってひとりぼっち席の子は一人もいなくなった。これは一つの例ですが、要するにグループワークができない子がいるので、そういう子たちへの配慮をしながら、少しずつそういう子たちを持ち上げていくことをやっている。また、たまたま今日はできないという子もいます。出がけにお母さんとけんかしたとか、昨日彼氏に振られたとか。「調子悪いときは無理しないでね」と言ってあげると安心して授業ができる。このようにグループ学習は、全員に同じことをやらせるのではなく、一人一人の状態に合わせてやらせて、だんだん成長させていくという配慮が必要だと思います。ぜひ無理しないようにやってください。

Q：ノートが存在しないとのことだが、先生が話していて大事だと思ったところを書き留めるなどして、後で自分の復習に利用する生徒はいないのか。(佐々木ひな子先生)

A：私の場合、ノートを禁止したわけではないが、4月から始めて1ヶ月もすると誰もノートをとらなくなった。最初のうちは、空欄を作ってメモができるプリントを作るなどして、いろいろ試していた。いろいろなことを試すたびに私は生徒に聞きました。毎回リフレクションカードを書かせるので、「今日こんなことやってみたけど、これどうだい？」と聞いてみた。越ヶ谷高校の場合、生徒の反応は「ノートはない方がいい、書かないで、メモ取らないで、ずっと見ていた方がストーリーがわかる」と多くの生徒が言ってきた。じゃあ、これで行こうと。ついでに言うと板書がないのも喜んでくれた。板書をしないと何がいいのと聞いたら名言をはいた生徒がいた。「俺たちは先生が黒板に書き始めると頭が止まるんです。」つまり「先生が黒板に書き始めると、ひとまとまり書き終わらないと何を書いているかわからない。書き終わるまで何書いているのかなー、と待たなければならないから、頭が止まる。10分20分と話を聞いているとストーリーがわかる。」こんなことを言っていました。ただし生徒が違えば反応が違ってくる可能性がある。皆さんもいろいろ試してみたら「どっちがいい？」と生徒に聞いてください。我々は実践者としては、日本中で通用する授業を開発するのが目的ではなくて、目の前にいるこの子たちが喜んでくれて成績が上がる授業を開発すればいいのだから。ユーザーにちゃんと聞く、ということをやった方がいいと思います。

Q：評価はどのようにするのか。今日の確認テストは、評価というより学びを深めるための一つの学習活動だったと思うが、最終的に成績はどのようにつけるか。(佐々木ひな子先生)

A：評価に関して、私と文科省とでは全く意見が異なる。私は、観点別評価、評定は、主体的学びを阻害しかねないと思っている。私が高校の教員の時は態度については評価しなかった。定期テストの点数だけにしていた。生徒には「先輩たちを見ていると、態度目標に沿ってしゃべったり動いたりしている先輩たちの点数は確実に上がってくるので点数にみんなの学習態度は反映していると思っている。だから点数だけで成績をつけます。ただひょっとしたら、俺はたくさんしゃべっているのに点数に反映してなかったと思う人が出てくるかもしれない。そういう人は私が評価を出した後でも遠慮なく言ってきてください。交渉次第でいくらかでも書き換えます。」と説明していた。6年間、一つも文句は出なかった。また、私は態度を無視していたわけではない。私

は態度目標を出しています。生徒たちの様子はかなり丁寧に見ています。でもここから先が違います。話し合っていないグループを見つけたときに、メモして後で点数化するのではなく、すぐそこへ行って「チームで協力できてる?」「教えたり質問したりできてますか」と一声かける。そうするとグループ活動が活発になる。態度を評価している暇があったら、態度をよくした方がいいと考えています

また、世界一の経営学者だと私が思っているピーター・センゲは、こういう学校のシステムが大人たちの会社を失敗させると言っている。子供たちは、担任の先生により評価をもらえるように、手を上げてみたり、掃除を一生懸命やったりして、先生の顔をうかがいながら点数を上げるというすべを小学校、中学校、高校、大学の間にやってくる。そして会社に入ってから上司の顔をうかがいながら仕事をする。その結果、肝心のお客の利益は二の次になってしまうから（会社が）失敗してしまうのだ。ピーター・センゲは評価評定のあり方について、そこがビジネス界の根幹の問題だと言っている。私には、理工系の大学に行く子に、いくらたくさん手をあげてもニュートンの方程式も解けない子に5をつけるわけにはいかない、という物理屋としてのプライドがある。ただ体育や音楽や家庭科は同じことはできないだろうと思う。教科科目の特性によって、観点別評価の比重を変えていく、評価の仕方を変えていく工夫は必要だ。

Q：秋田県の小中学校では学び合いに力を入れていると聞いた。西川純・上越教育大学教授が提唱する「学び合い」は、小林先生が提唱する「アクティブラーニング」に通じるものがあるのか。また、学校行事や部活動にアクティブラーニングを取り入れることはできるか。（亀田先生）

A：アクティブラーニング型授業の具体的な例はたくさんある。学び合いとか、学びの共同体とか、仮説実験授業だとか、古くはバズーカ学習法など様々ある。それぞれにいろいろな特色がある。「学び合い」と「学びの共同体」は、秋田県だけでなく、全国の小中学校でも多く実践されている。そのことによって子供たちが、みんなで話し合う、話し合いながら学ぶことに慣れてきている効果があると思う。どんな方法にしても先生たちの特性が強くなるので、「学び合い」でも「学びの共同体」でも話し合いはさせるけれども、あまり点数を上げることに重きを置いてない先生や、教科書を終わらせることに重点を置かない先生もいるようで、知識の定着に関しては、若干問題が起きているクラスや学校もあるようです。ただ、高校側としては、言語活動の充実と言われるなか、小中で話し合う活動に慣れている生徒たちが増えているため、グループワークなどをやらせると、すんなりやる子が増えた。その点をうまく活用していけばよいのではと思う。いろいろな手法、技法、議論を皆さんそれぞれ現場でやってみて、「うちの学校では、授業ではこんなことがうまくいった」というのを共有すべきだ。同じ学校の生徒ですから、何かの科目でこの先生がやって生徒が喜んだ場合、他の科目で同じ生徒にやってみても多分うまくいく。学校の中での情報交換の方が役に立ちそうな気がする。

また、他の活動にもどんどん活かすべきだと思う。「主体的、対話的で深い学び」が起きるようなHR指導、部活動指導をやっていくことで、彼らが大人になって会社に行くときに、役に立つ人材になっていくと思う。後で話しますが、ちょっと前までは、ベルトコンベア型の工場労働者を育成するために「黙ってろ」「じっとしてろ」「言われたこと言われたとおりにやってろ」ということができる子供たちが多かったが、今のビジネス界はそうではなくなっている。自分でやる、みんなで協力する、新しいことをどんどんやってみる、そういう力をつけさせるHR経

営や部活動指導が必要だと思う。

Q：アクティブラーニングとはそもそも手法なのか、授業形態なのか。(小西先生)

A：授業形態とはいえない。文科省が最初の大学専門部会で出したときは、長い定義を書いていたが、さっき資料で見た「主体的・協働的学び（いわゆるアクティブラーニング）」、あれが言いたいことだと思う。今回出してきた「主体的・対話的で深い学び」というのをやりましょうよ、というのをいわゆるアクティブラーニングという程度のこと。アクティブラーニングとかアクティブラーナーという言葉があちこち出ているが、出自にしても歴史的にも根源が複数あり、みなさん4年くらい使っているのだから、私はあまりこだわらないで文科省が言っているように「主体的・対話的、深い学びができるような授業を作りましょう」ということが大事だと思う。

Q：アクティブラーニングの形式で主体的に学習する、その前段階として、基礎基本の部分は、どこまで時間をかけて導入すればいいのか。(小西先生)

A：大学から始まったものなので、最初は、応用的な学習をアクティブラーニングで学ぶというニュアンスでした。大学や専門学校で行っているPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）（プロブレム・ベースド・ラーニング）と言われる手法を大学・専門学校から高校、中学校、小学校に下ろすのだという話が出てきた。しかし小中学校でPBLができる時間は少ない。小中高のカリキュラムの大半は基礎基本習得型の科目です。だから、いかに黙ってじっと聞いているだけの授業じゃない学び方を身につけさせるか、が大事です。先ほど見ていただいた授業だって、応用も活用も全くない。教科書に書いてあることをちゃんと覚えて、簡単な練習問題が解けるようになりましょう。ただそれだけの授業です。でも今までは、先生がずっとしゃべって生徒に覚えさせていたのを、短い説明だけで、あとは生徒にやらせる。すると生徒たちは一生懸命教科書を見たり、友達に聞いたりして問題を解きます。このときに積極的だから覚えちゃうんです。そういう仕組みでやった方が実は習得型の科目もうまくいく。見ていただいたとおり、私の授業だとセンター試験の点数も上がっていく。そっちの方が大事です。見せていただいた授業だと、プログラムつくるとなった後、ちょっと応用、活用に入っていくのかなという気がしますけどね。

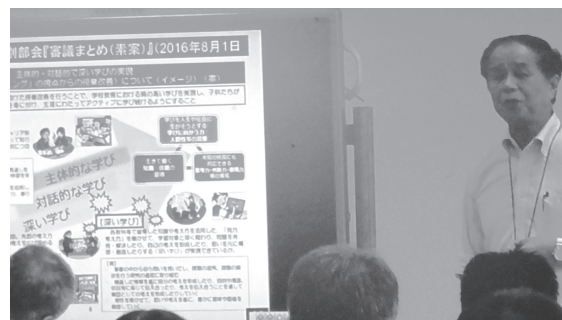
Q：生徒のアンケートの中に「時間が短かった」という感想があったが、50分授業では「短い」といわれる時間をどのように工夫したらよいか。(佐々木絵里先生)

A：越ヶ谷高校は65分授業だったので、学習内容の説明（15分）、問題演習（35分）、振り返り（15分）でした。今日は35分のところを20分に縮めて50分授業に合わせた。練習問題の数を変えれば対応できる。最初の説明は、生徒を主語にするなら情報の収集です。だから暗記物の生物や日本史、世界史だと変えなければならない。いろいろな本が出ているので、見ていただきたい。

最後に、アクティブラーニング型の授業に変えたとき、子供たちや保護者の理解が得られないこともある。大きく形を変えるときに、皆さんが文句を言われることもあると思うので、背景的なことを共有しておくとう説明しやすい。世界中で授業改善が動いています。世界中で一番長く、深刻に、

授業改善をしているのが日本とOECDの中のデセコという機関です。デセコが最近では日本に負けたと言っている。なぜ世界中でこのようなことをしているかという、工業化社会から知識基盤社会へとゆるゆると変わり続けているからです。工業化社会とは、もとは産業革命で出現した社会システムのことを言う。イギリスを例にとれば、それまで家内制手工業で毛織物を作っていた。それを市場に持って行って売っていた。ところが産業革命によって工場に蒸気機関と大きな機械ができて、一度に大量に作れるようになった。みんなの働き方も変わります。工場に行き働くようになった。ちょっと窮屈ですが、集団力と機械力によって給料もちゃんともらえる、工場も儲かる、国も税収が上がって儲かる。なのでこのシステムが広がっていく。いわゆる資本主義社会の萌芽です。資本主義社会は、最後には市場がないと立ちゆかなくなる。作った商品が売れなければならない。商品を大量に作れるようになって、市場が飽和状態になると行き詰まるから、どうするかという、海外に市場を求めていく。植民地をつくる。列強が一気に次々と海外に市場を求め始めると、そこでぶつかります。植民地の奪い合いが始まり戦争になります。だから戦争が頻発する時代に入っていく。これを帝国主義の時代というのですが、そうやってくると生産力の向上が少し変質してくる。生活を豊かにするためだけでなく、戦争で負けない国作りが必要になってきて、鉄砲や大砲の弾とか軍艦や戦艦を作るといって、いわゆる重工業にシフトしていく。そうすると原材料の確保やインフラの整備や工場の増設が必要ですが、何が一番重要かという、優秀な工場労働者です。これをどれだけ国が持てるかで国の力が変わってくる。どこで育成するか。学校です。学校はそのために洗練されていきます。我々の教育はいつの間にか忍耐強く従順で協調性ある子供たちを育成するためのシステムになった。これがだめとはいきません。この時代はそれでよかった。みんなと一緒にいけばみんなと同じ幸せになれる。国が面倒を見てくれた。でも現在はそれが崩壊しています。みんなで一緒にいっているつもりなのに、自分だけクビになった、自分の会社だけ潰れたということが起きる。先日のNHKスペシャル「縮小日本の衝撃」は是非見ていただきたい。人口減が始まっていますが、2020年、東京オリンピックの後、東京も人口減が始まる。23区のうち11区が人口減になる。さらに2030年頃には豊島区が財政破綻になる。ここに書いてある以上の大変な事態になってくる。そうすると、今まで通り、言われたことを言われたようにやってみんなで一緒にやっていくのでは、幸せな人生にはつながらないので、自分の目で見て、自分の頭で考えて自分の足で歩ける子供たちを育成しなければならない。この変化は明治維新や太平洋戦争より大きな変化だと言われてはいますが、何か事件があったからというわけではない。天変地異があったとかテロが起きたとか、たくさんの人が死んだというインパクトはありません。ぬるぬるぬるぬると変わってきている。社会学者の山田昌弘氏は、この変化の波が訪れるのが一番遅いのは公教育の社会だと言っている。つまり私たちです。ものすごい矛盾です。次世代を育成すべき私たちの世界が、一番時代の変化に鈍感だ。だから理論的な学習が必要だと思っています。山田氏の書籍を1,2冊読んでもらって、ああこういうことかとわかってくる。それにいろいろ具体例をつけて、子供たちや保護者に伝えていただくことが必要だと思う。

ひとつ付け加えたいのはロボットの話です。ロボットがどんどん増えてきました。今の子供たちは、しばらくは就職できるが2020年頃を境目にだんだん仕事が減っていくかもしれない。ロボットにしかできないような仕事をやっていくと、ロボットの方が時給が安いので、ロボットと同じ



時給ではとても生活できない。だから人間にしかできない仕事ができる能力を育成する必要がある。だから「思考力、判断力、表現力」であり、「主体的・対話的に深い学び」ができるようになっていく。その訓練を、たまにやるキャリア教育の時間ではなく、毎日やる教科・科目の時間の中で、訓練をしながら一般教養も身につけさせていく。こういうことを私たちは考えなくてはいけなくなってきた。日本の学校教育は、工業化時代の社会においては世界で一番成功した国です。戦後の大復興のことです。歴史を振り返ると1945年終戦、それから19年後1964年、東京オリンピック、64年のオリンピックの歴史の中で最大の大成功だった。戦後わずか20年足らずでそんな成功が起きている。さらにその後1970年代に入ってくると“Japan as No.1”と言われるようになってくる。この大復興はなぜ起きたかという、とにかく経済大復興です。経済が復興していくために何が必要だったかという、物質的なこともあるが、先ほど述べた優秀な工場労働者が大事でした。私より少し上の世代、団塊の世代の人たちが小学生、中学生だった頃は、戦後まもなくなので学校の増設ができない。だから従来あった学校に押し込むので、1クラスに50人も60人も生徒がいた。机間巡視ができない、冷房はない、寒くても暖房もお粗末なものであった。劣悪な教育環境であったにもかかわらず、この時代の先生たちは着々と優秀な工場労働者たちを育成し、社会に送り込んでくれたので、戦後すぐは安かろう悪かろうと世界中から揶揄された日本製家電製品があつという間に性能を上げ、大量生産に耐え、売れまくった。これが大復興の原動力。だからあの時代の学校の先生たちは、国の未来を作ったと豪語できる先生たちだと思う。だから我々もその後輩として、私たちも国の未来を作ったと、あと10年、20年、30年後に言いたいではないですか。でも大きな落とし穴があって、私たちの記憶に残っている私たちが受けてきたあの授業は、工業化社会において工場労働者を育成するために成功した授業である。それをそのままやったら子供たちは大失敗になる。そこが我々にとって難しいところ。ここをちょっと苦労しなければならないが、そこを乗り越えればきっと大変化をしていく。人口大減少に向かっていくこの日本の中で、次はどうやって生き抜いていくか、そういうことを成功させる教育を私たちはできる、そういうポジションにいるはずです。そこができれば私たちはいい仕事をした、よい人生だったと言えるはずなので、そこを目指して一緒にやっていきましょう。これを機会にまたいろいろとやりとりさせていただければありがたいと思っています。

第2回校内職員研修

「心と体の健康講座」 ～体感メンタルトレーニング&エアロビクス～

講師：秋田県スポーツ科学センター
メンタルトレーニングアドバイザー
宇 都 友 博 氏

講師：日体協公認エアロビクス指導員
石 井 亜 紀 氏

I 体感メンタルトレーニング

日時：平成29年1月16日（月） 15：00～16：00

場所：会議室

内容：心理的スキルの紹介と基礎的なトレーニング

記録：下記参照

1 講師の紹介

1992年生まれ千葉県出身、東海大学付属市原望洋高等学校バスケットボール部所属。

東海大学体育学部競技スポーツ学科東海大学スポーツサポートシステムで、メンタルトレーニング部門の学生スタッフとして4年間活動する。

現在は、秋田県スポーツ科学センターのスポーツ医科学班に所属し、メンタルトレーニングアドバイザーとして活動している。



2 メンタルトレーニングとは

心理学に属している。スポーツ心理学の分野があり、選手の心理面はどうなっていて、どう変化するか、選手の心を強くするにはどうしたらいいかなどを研究している。実際のメンタルトレーニングの指導は、過緊張しやすい生徒、選手へ解決方法を提示していくことが中心となる。

具体的には、メンタル面を強化するために8つの心理的スキルをトレーニングする。これらを日常生活や練習で取り入れることで、心理面を強くしていける。トレーニングについては、選手と話しながら指導していくことが多い。また、部活動においては、保護者の関わり方も大きいので、保護者向けのプログラムなどもある。

部活動の練習中や試合中に、「集中しなさい」という場面がある。普段は競技経験的に何となく高めることができるはずだ。具体的には、指の指紋見つめて高める、単純作業、単純計算などの方法があるが、実際どうやるとできるのか、スポーツ心理学で研究されている。心理的競技能力診断検査というのがあり、52個の質問に答えてもらうことで、選手の心理面をグラフや点数で評価することができる。どのくらい逆境に強いのか、勝つための心の準備、ぶれない平常心がどのくらいあるのかなどがわかる。点数化された結果を参考に指導していくことができる。

メンタルトレーニングは、競技力向上、自分の実力を100%発揮する、質の高い練習をして上達を速める、人間的に成長する、ポジティブシンキングで生活するなど、様々な分野に応用することができる。

3 ストレスとは

ストレス源をストレッサーという。ストレスを感じる仕組みは、ストレッサーを認知→ストレスとして蓄積する→体や心に不調を感じる→自律神経失調症などの病になる。心を風船にたとえると、膨らんでいるときは心が安定している状態とし、そこへストレスという圧が加わるとゆがみ、過度のストレスがかかると割れる。できるだけ心を安定した状態に保つことが大切である。

ストレスをため込まない方法に、プラス思考になることがあげられる。ストレッサーの認知量を減らすことで、ストレスを減らしていくというものだ。実際、プラス思考の選手が競技能力高いといわれている。

プラス思考とは、例えば強気、積極的、自分の取り組んでいることが好きと感じられることである。マイナス思考とは、弱気、失敗を人やもののせいにする考え方などのことである。

マイナス思考がよくないのは、失敗のイメージを作りやすくなるからである。「できないかもな」という不安が高まり、やらないという回避行動が多くなる、そしてここぞというときに実力が発揮できないのだ。ミスにミスを重ね、連鎖する、マイナス思考はパフォーマンスを高めることができない。

人が意識したり、考えることができる量には限界がある。人が考えることができる量をコップにたとえたとする。マイナス思考の場合は、「できなかった場合はどうしよう」という不安などを意識しすぎて、自分が処理できる量を減らしていくことになる。

4 ポジティブシンキング（プラス思考）とは

ポジティブシンキングを身につけて、マイナス要因を減らしていくことが大切である。

どのようにしたら、ポジティブシンキングが身につくのか。その方法に、笑顔を作る、セルフトークや姿勢を良くする、その日によかったことを思い浮かべて寝ることなどがあげられる。それらを実践することで、不安感が和らぎ、脳はプラス思考になるといわれている。

まず始めに、笑顔を作ること。就学前の子どもは一日に400回笑うという調査結果がある。これは、一日に15分間に換算できる。成人女性は一日に13.3回、一日に30秒未満しか笑っていないという。これには、ストレスにより笑う回数が減ることや、子どもが積極的にものごとを見ているという見解がある。

二つ目は、セルフトーク。独り言、自己会話ともいわれている。前向き、後ろ向き、いくつかパターンがある。前向きなセルフトークには、「まだまだいける」などの粘り強さを意図することばがある。後ろ向きなセルフトークには、「だりー」「対戦相手が悪かった」などのことばがある。セルフトークを前向きにすると、心も前向きにする、パフォーマンスも向上するといわれている。「～しないようにしよう」という目標設定の場合、できなかった場合にセルフトークが「～しちゃった」とマイナス思考になってしまう。「～する」という目標設定の場合、セルフトークが「～できた」とプラス思考になる。プラス思考になるセルフトークを心がけることが大切である。

三つ目は、胸を張り上を向くこと。思考と感情と行動は互いに影響するといわれている。例えば、ため息をつくことで肩がしぼみ、姿勢が悪くなり、ネガティブになっていく。姿勢をよくすること

で、プラス思考に転換していくことができる。

四つ目は、いいことを振り返る。人はネガティブな感情の方が強く印象に残るといわれている。野球競技だと、イップスといわれ、変なフラッシュバックで失敗することがある。たとえば、試合が終わった後のミーティングで、「今日の試合で悪かったと思うことをあげなさい」というと、すぐ8割の選手が手を上げることができるが、逆によかったことを聞くと、見つけられなかったりする。いいことの方が見つけることに努力が必要なのだ。部活動ノートに、練習や試合でよかったことを3つ書かせる。一日の終わりやミーティングでいいことを振り返るなど、積極的にポジティブな感情を想起させることは有効である。

5 心をコントロールするために呼吸や音楽を

過緊張になると、呼吸が浅くなる。呼吸は心のバロメータになる。緊張していると、せわしく呼吸し、浅くなる。逆に、リラックスしていると深い呼吸になる。深呼吸はリラックスし、落ち着ける。吐く息を長くすると、副交感神経が働き、リラックスできる。息を吸うと、交感神経が働き緊張する。正しい呼吸法は、吸う息と吐く息のバランスが大切であり、1：2のバランスが理想的である。また、腹式呼吸はおなかが動き、肩が動かない、リラックスできるので、活用してほしい。



音楽を活用して心をチェンジすることもできる。ローテンポな曲調はゆったりした気持ちになり、スポーツ前には適さない。気分を高めるためにはアップテンポな曲調のものがよい。

リラックス効果を高めるにはローテンポなものや、1/f ゆらぎがあるものがよい。1/f ゆらぎとは、ヒーリング効果のある音波であり、たとえば、自然界の中にある風の音、水の音などに含まれている。クラシック音楽にも含まれていて、特にモーツァルトの曲には多いといわれている。

音楽を使い分け、積極的に活用するのは効果が高い。インターネットでも色々な音楽がダウンロードできるので、活用してほしい。

6 質疑応答

佐藤大先生

軟式野球の部活動において、試合で初級に手が出ないことで、いい玉を見逃しヒットが打てないという傾向に陥っている。ミーティングで話し合ったところ、自信がないということがわかった。自信をつけるための実践的練習内容を教えてほしい。



宇都先生

練習の中で生徒に自信をつけさせるためには、成功体験を積み重ねさせることが大切である。長い時間だとだらけてしまうので、バッティング練習時に、3球中でバッティングを成功させるなど、球数や時間制限を設けることが一つのアプローチになる。

プレー前に考えすぎて、行動に移せない場合、バッターボックスに入る前にルーティンを決めさ

せて、それができたかどうかを自己評価させるなども方法の一つである。

村上健先生

「ゾーンに入る」というが、競技力が最高の状態をずっと維持できている状態に、意識的に持って行くことは、メンタルトレーニングの面で研究されているか。

宇都先生

ゾーンに入るには、身体、心理、環境要因が重要である。たとえば、体のコンディション、栄養面、気温、湿度などがある。心理的には、自信やいいイメージを持っていて、やることが明確な状態などをいう。講義の前半で説明した、8つの心理的スキルをトレーニングすることで、ゾーンに入ることは可能である。

過緊張の場合や気分が乗らない状態はパフォーマンスがよくない。その間が理想的だといわれている。その状態にするためには、体を動かしたり、パートナーとワークを行うことで、自分の気分を高めることができる。

研究は色々ある、ただ、メンタルトレーニングだけではなく、それ以外の要因も影響するということを忘れないでほしい。

高橋伸友先生

生徒をやる気にさせるためには、ほめて伸ばすことが大事だといわれているが、場合によっては、しかることも必要になってくる。しかり方によっては、生徒が萎縮してしまうこともある。よい怒り方はあるか。

宇都先生

萎縮する怒り方を「怒る」といい、やる気にさせる怒り方を「しかる」という。しかるためには、具体的戦術などを指導していくことがあげられる。

Ⅱ エアロビクス

日時：平成29年1月16日（月） 16：10～16：50

場所：トレーニングセンター2F

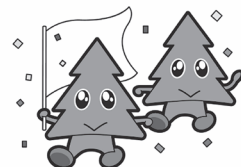
内容：ストレッチ&有酸素エクササイズ（軽めのエアロビクス）

記録：アップテンポな音楽と、先生の声かけにより、軽めのエアロビクスを行った。参加者いわく、これまでで一番ハードなエクササイズだったということだ。



メンタルトレーニングってなんだろう？

- ・大切な大会であと一步のところまで勝ちきれない。
- ・技術レベルはほぼ同等なのにどうしても勝てない相手がいる。
- ・練習ではできていることが、試合になるとできなくなる。



このような問題は、メンタル面に大きく影響しているかもしれません。
「心・技・体」という言葉がありますが、この「心」を鍛えるためのトレーニングが「メンタルトレーニング」です。

メンタルトレーニングを実施する目的

- (1) 試合で実力を発揮する (2) 質の高い練習をし、上達を速める (3) 人間的に成長する

メンタル面を強化するために基本的な8つの心理的スキルをトレーニングします。

①目標設定

目標を明確にして、それを達成するためのプランを作る。練習日誌でその日の振り返りをする。

②リラクセーション&サイキングアップ

自分の気持ちをコントロールして、良い心理状態を作る。(音楽などを活用)

③イメージ

最高のプレーをするため、新しい技やフォーメーションを身につけるためにイメージを活用。

④集中力

重要な場面で最高の集中を出来るようにする。(ルーティーンやフォーカルポイントを活用)

⑤プラス思考

好きなスポーツを楽しむ(苦しい練習もいかにして楽しくするか)という考え方をつくる。

⑥セルフトーク

自分の気持ちを高めたり、ミスした後の気持ちを切り替えたりするために自己会話のトレーニング。

⑦試合に対する心理的準備

試合で勝つための徹底した心の準備をするトレーニング。

⑧コミュニケーションスキル

チームワークを高め、ポジティブなコミュニケーションをするためのトレーニング。

メンタルトレーニングは毎日の生活や練習で取り入れることができます！

心を鍛えて、試合で自分の持っている力を最大限に発揮しましょう！

自分の気持ちをコントロールする (セルフコントロール能力を高める)

あなたは自分の気持ちをコントロールできますか？

例えば、練習前なのにやる気が出ない。

試合前に緊張してしまって頭が真っ白になってしまう。

ミスが気になってしまって調子を崩してしまった。

このような経験はないでしょうか？

これらの問題はセルフコントロール能力を高めることで解決できる可能性が高まります。

セルフコントロールとは

どんな状況でも平常心を保ち、いつも通りの実力を発揮できるよう、
精神状態を自分でコントロールできるようにすること。

セルフコントロール能力を高める方法をいくつか紹介します

① 姿勢 … 皆さんは落ち込んだ時にどのような姿勢になりますか？

気持がのって自信がある時にどのような姿勢になりますか？

気持が乗っているときは胸を張り、上を向いていると思います。(ヘッズアップ)

この姿勢を意識して行うことで気持ちを切り替えるテクニックとします！



② 呼吸 … 緊張しているときにはどのような呼吸をしていますか？

リラックスして落ち着いてるときにはどのような呼吸をしていますか？

緊張している時は浅く速い呼吸、リラックスしている時は深くゆっくりな呼吸をしていると思います。

呼吸の速さをコントロールすることで気持ちをコントロールするテクニックとして活用します！

③ 音楽 … 気分を盛り上げたい時に聴く音楽は決まっていますか？

落ち着きたい時に聴く音楽は決まっていますか？

普段から決まった音楽を聴くことで、試合前などいざとなった時に

音楽で自分の気持ちをコントロールできるようになります。

気持ちを盛り上げたい、リラックスしたい時に聴く音楽を決め、気持ちをコントロールできるようにしよう！



日常生活での活用例

- ・朝目が覚めてから鏡で自分の表情、姿勢をチェックして姿勢を正して見る
- ・普段の呼吸をチェックして、自分の気持ちと呼吸の関係を知る
- ・朝起きてから気分の乗せるため、寝る前に気分を落ち着かせるために音楽を利用する



自分の姿勢や呼吸、気持ちをチェックして
いつでも自分の気持ちをコントロールできるようになろう！

勝平地区 小・中・高・特別支援学校連携協議会 参加報告

研 修 部

◎学校間連携のねらい

勝平小学校・勝平中学校・秋田商業高校・秋田きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで、長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、児童・生徒の学習方法の確立や学習内容の定着、生活習慣の形成に努める。

1 と き 平成28年 5 月11日（水）

2 ところ 秋田市立勝平中学校

3 日 程

授業参観 13：35～14：25

連携協議会 14：45～16：00

(1)全体会 14：45～15：00

①勝平中学校長あいさつ

②今年度学校間連携についての説明

(2)分科会（各分会・プロジェクトの協議）15：05～15：35

(3)全体会 15：45～16：00

①各分会からの報告

②勝平小学校長あいさつ

4 参加校 勝平小学校・勝平中学校・秋田きらり支援学校・秋田商業高等学校

5 本校からの参加者

英語1・国語1・理科2・地歴公民1・家庭1・商業1

計7名

6 中・高連携部会で話し合われたこと

- 1) 昨年度の事業について（勝平中2年生 商業科目授業体験）
・昨年度のコンピュータを使った授業がとてもよかったので、今年もそのような授業をしてほしい。（勝平中学校の先生より）

2) 今年度事業について

①11月10日 勝平中学校指導主事計画訪問時の授業参観及び、各教科協議会参加

②2月16日 勝平中2年生 商業科目授業体験 ※2月14日に変更、実施

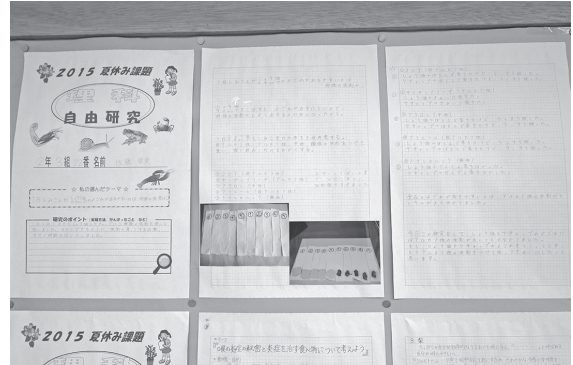
・昨年度に引き続き、勝中出身の3年生を補助員として、授業体験を実施する。



7 授業参観した先生方から

1) 授業内容について（参考になったこと）

- ・班ごとのホワイトボードの活用の仕方が参考になった。
- ・丁寧に時間をかけて説明している。
- ・グループごとに考えをまとめさせ、小さなホワイトボードを利用しながら各グループに発表させている。
- ・理科の自由研究や新聞は、家庭科のホームプロジェクトに取り入れることができそうで、たいへん参考になりました。
- ・プリント内容やグループワークの方法に新しい発見があった。
- ・板書のまとめ方。ノートをA4サイズで、プリントはB5サイズで貼りやすくしている。
- ・グラフ、写真からわかることを答えさせる。
- ・グループごとに作業割り当てをする。



2) 授業参観した感想

- ・1クラスの人数が少ないことが一番。全体に目を配りやすく、本当にうらやましい。
- ・授業についても多数の教科について参観でき、たいへん勉強になることも多かったが、教室環境や廊下の掲示物等も参考になる点が多く、非常に貴重な経験となりました。
- ・廊下が広く、大型のエナメルバッグを置くための棚があり、整然とした校舎でした。中学生がどのような環境でどのように授業を受けているか知ることは、高校での学習活動を考える上で、たいへん役に立つと思いました。
- ・生徒たちに考えさせ、相談させてまとめさせる時間をしっかり準備しているのが印象的でした。
- ・中学校での指導の時間のかけ方、丁寧さが強く印象に残った。イオンの理解には時間がかかるところであり、必要なことと思った。

【参観した教科】（参加人数）

英語（3） 数学（0） 理科（3） 社会（2） 国語（2） 美術（3）
音楽（0） 保健体育（3）



3) 中高連携について

- ・来年も都合がつけば参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・お互いができる範囲で、あまりハードルをあげずに交流していければよいと思います。

勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会 参加報告

研 修 部

- 1 と き 平成28年11月10日（火）
- 2 ところ 秋田市立勝平中学校
- 3 日 程 特定授業参観 11：05～11：55
研究協議会 13：45～15：05
- 4 参加者 本校からは、特定授業（研究授業）参観に4名、研究協議会に2名参加

～参加した先生方から～

授業参観した感想

- ・授業内容だけではなく、普段見ることのない中学生の授業風景や掲示物など、たいへん参考になりました。
- ・生徒に実験をさせてから考察させる授業であった。一人ひとりの意見をよく拾い、指導していた。
- ・学習用紙に書き込んだことをもとにして段落の要旨を確認し合う授業であった。「多数決で決めるのではなく、意見が食い違ったら必ず話し合うこと（意見が一致しないときこそ本文を深く理解するチャンス）」「必ず教科書の文章を根拠として話し合うこと」など、生徒への指示を明確に行っていた。普段からグループ活動には慣れているようで、活発な話し合いがなされていた。
- ・「プロロボ」という教材を用いたアルゴリズム学習であった。授業のねらいとしては、機械制御を正確に行うための正しい手順を考えるというものであり、いくつかの班に分かれて、アルゴリズムの構築→プロロボへの実装→実行・検証という流れで授業が行われていた。
- ・プログラミング（技術）の授業を見ることができて良かったです。中学校の段階であの位の指導がなされているのであれば、高校もある程度高いレベルからスタートしてもいいと思いました。

【参観した教科】（人数） 国語（2） 理科（1） 技術・家庭（1）

教科研究協議会の様子

【国語科】

内容 ①研究主題と研究協議題についての説明

②授業者から

③授業についての感想と質疑応答

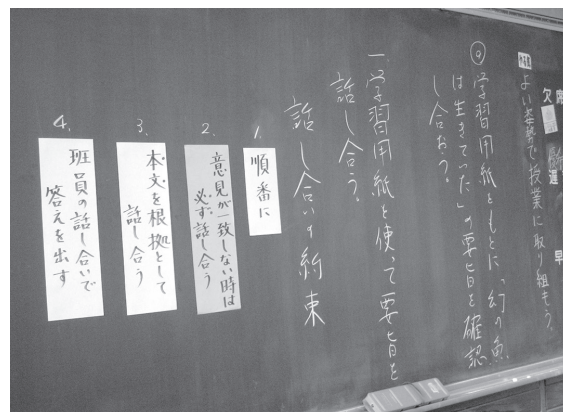
④指導者（教科等指導協力員・外旭川中所属）からの指導助言

- ・研究主題 ー自分の考えや思いを伝え合い、学び合うことができる生徒の育成

研究協議題ー説明的な文章の要旨をとらえる学習において、生徒の学び合いを生かし、達成感を味わいながら深める具体的な手立てはどうあればよいか。

感想 ・「要約する力」をつけさせるための初歩的な学習を行うことがねらいとのことだった。入念な教材研究に基づいて授業を行っているのだということに、まずもって感心した。今回の授業のためにかなり前から資料を集めるなど、授業にかける強い思いには頭の下がる思いがした。

- ・生徒の話し合いの中で、ある言葉の意味がわかれば解決できるのに、という場面があったので、国語辞典の使用について質問したところ、意味調べの時間を設けているので普段は使用させていないとのことだった。わからないことがあればいつでもすぐに調べられるような状況にしておいた方がいいのかなと思った。



【技術・家庭科】

内容及び感想

- ・授業内容の協議よりもプログラミング必修化が話題の中心であった。実際に何をするか、小学校との連携をどうするか、そもそも指導体制をどうするかという課題解決の糸口を探すための有意義な協議会であった。勝平地区連携校として秋田商業高校ができることがまだまだたくさんあると感じることができた。



勝平中学校2年生による商業科目授業体験

商業科 佐藤 和佳
柏谷 亜紀子

1. はじめに

小・中・高・特別支援学校連携協議会において、勝平小・中学校、秋田商業高校、きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、児童・生徒の学習方法の確立や学習内容の定着に努めるとされている。そのような状況の中で、中高交流授業の一環として勝平中学校の2年生が秋田商業高校を訪問し、授業を体験することで商業科目及び商業高校についての理解を深めている。

2. 実施内容

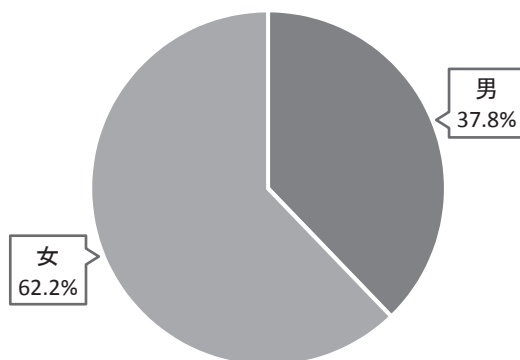
今年度の中高連携授業は平成29年2月14日（火）に行われ、本校の3年生が「電子商取引」で学ぶHTML言語を用いてWebページの作成を行った。導入部分では、今年度「電子商取引」で取り組んだ「楽天IT学校」での活動の様子や「楽天IT学校甲子園」へ参加したときの様子などを紹介し、本校情報コースでの学習について実際の作品や映像を見せた。その後、Web作成に入り、中学生はメモ帳を使いHTML言語を入力した。文字や記号、スペースなど入力のコストを知らなければうまくページが表示されないため、入力作業は非常に時間がかかった。また、本校教員だけでなく、勝平中出身の本校3年生もこの授業のアシスタントとして、後輩たちへの指導を経験した。



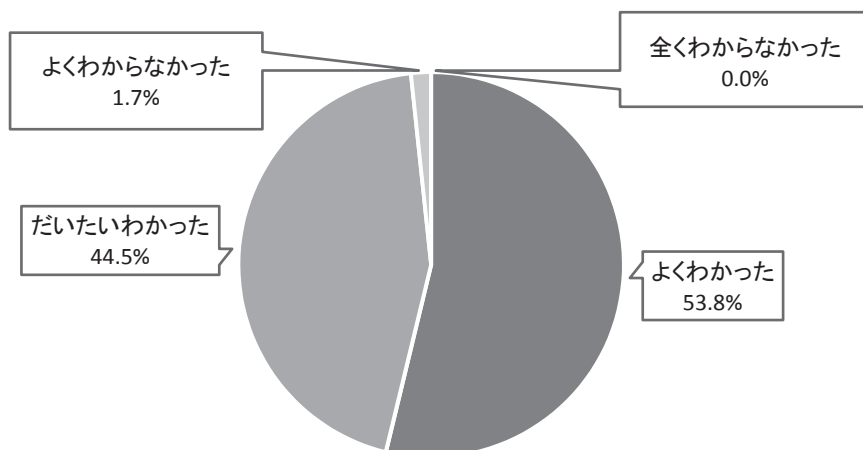
時 間	内 容		備 考
～ 9:50	秋田商業高校到着、生徒昇降口で内履きに履き替えて各教室へ		1 校時
10:00 ～10:10	総合情報処理室（定員88） 84名（男子40、女子44）	プログラミング室（定員44） 40名（男子10、女子30）	2 校時
	開会行事 （進行：石井） 1 挨拶（村上教頭） 2 日程説明 ※アンケート用紙配布	開会行事 （進行：保坂） 1 挨拶（加藤教頭） 2 日程説明 ※アンケート用紙配布	
10:20 ～11:30	授業体験 担当：佐藤和、菅原、石井 ※補助員 勝平中卒業生 （3年F組2人）	授業体験 担当：柏谷、保坂 ※補助員 勝平中卒業生 （3年E組2人）	3 校時
11:30 ～11:40	閉会行事 1 挨拶（村上教頭） 2 勝平中学生挨拶 ※アンケート回収	閉会行事 1 挨拶（加藤教頭） 2 勝平中学生挨拶 ※アンケート回収	
11:50～	勝平中学校へ移動		

3. アンケート集計結果（対象者 勝平中学校2年生 119名：男子45名 女子74名）

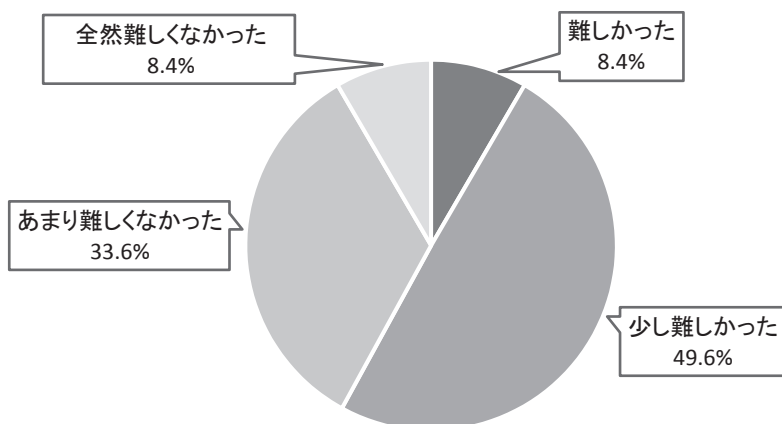
Q1. あなたの性別は？



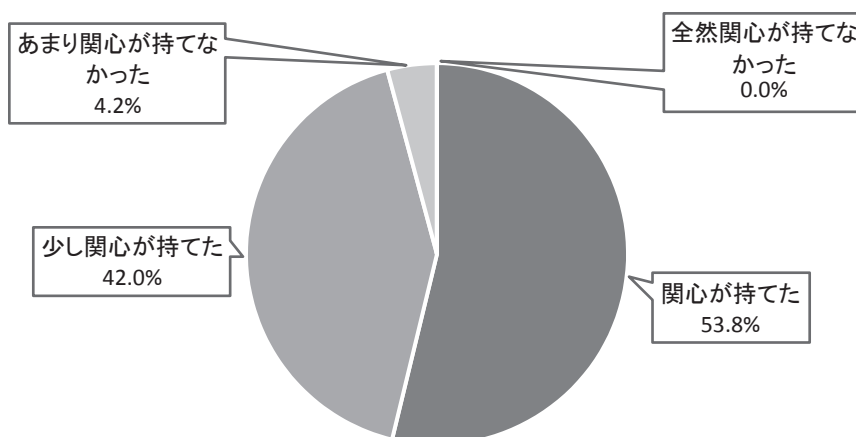
Q2. 授業の内容はわかりましたか？



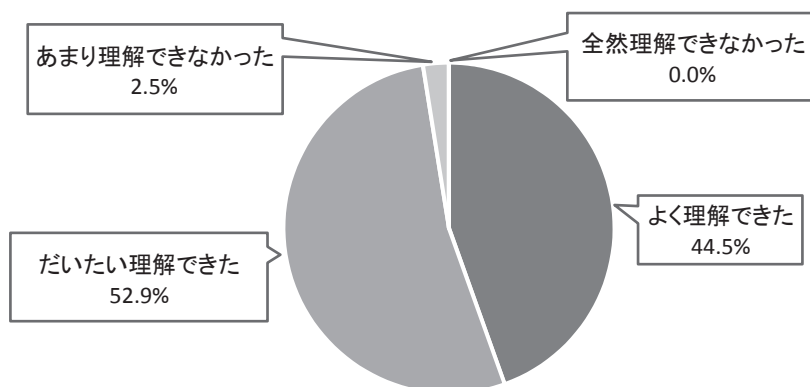
Q3. 授業内容は難しかったですか？



Q4. 授業内容に関心は持てましたか？



Q5. 先生の話は理解できましたか？



4 参加生徒からの質問

※回答は後日「アンケート結果」とともに勝平中学校へ送りました。

Q 「違うパソコンのメモ帳からでもインターネットにつながることができますか？」

A メモ帳がインストールされているパソコンであれば授業で体験したようなホームページを作ることができます。インターネットに接続できるように設定（契約）されたパソコンであればホームページを公開することができます。

Q 「バーの使い方を知りたい」

A それぞれのソフトウェアによって機能が異なりますが、一つ一つをクリックすると操作できる機能の見出しが出てきますので、それを見て自分が使いたい機能を選択してみてください。

Q 「私はどちらかというと、マーケティングの方に興味があった。どんなことをしているのですか？」

A “マーケティング”とは商品が消費者に円滑に届くための活動のことです。1年生では全員が「ビジネス基礎」の授業の中で、どのような役割を持つ業者がいるのかということやビジネスの視点から世の中の基本的な仕組みを勉強します。まとめとして、昨年度からビジネス基礎発表会を開催しています。

2、3年生では、流通経済コースで「マーケティング」「広告と販売促進」などの授業を通して消費者のニーズを分析し、実際に広告を作成するなどより深くマーケティングを勉強します。今年度は実際にラジオ広告を作成しました。

5 参加生徒の感想（抜粋）

- ・今日はありがとうございました。webページを作るのが楽しかったです。とても勉強になりました。また機会があればよろしくお願いします。
- ・秋田商業高校の授業を体験してみて、やはり中学校とは違うなと思いました。商業高校なので、商業の専門的な学習をしていて、とても興味深かったです。商業高校について、もっと知りたいと思いました。
- ・ホームページの作り方がよくわかった。プログラミングに少し興味があるので、今日習ったことを使ってみたいと思った。
- ・楽しく勉強することができました。とてもわかりやすかったです。商業科は難しそうなイメージがあったけど興味を持つことができました。
- ・たくさんのことを知ることが出来たので良かったです。少し難しいところもあったけど勉強になった。
- ・皆で協力して作ることができました。少し打つのに時間がかかりました。大変勉強になりました。今日はありがとうございました。
- ・一つ一つ確認しながら打つのが難しかったが、できたときの達成感がすごかった。サイトを作ることの楽しみを得ることができたので、とてもうれしかった。授業の内容を理解できて、ミスを自分で確認できたことにうれしかった。
- ・webページの仕組みが少し分かったし、とても楽しく授業ができたので良かったです。
- ・あまりパソコンに慣れていなかったもので、最初は少し苦戦していましたが、最後の方は少し理解することができたので良かったです。楽しかったです。
- ・初めてwebページを作成してみて、とても難しいと思いました。でも、また機会があったらやってみたいなと思いました。
- ・今日はありがとうございました。高校に来て体験授業のようなことをするのがはじめてで最初不安だったけれど、楽しかったです。
- ・コンピュータをうまく操作できるか心配だったけれど周りの人に聞きながらwebページを作れたので良かったです。楽しかったです。
- ・楽しかったです。今回のことを忘れず、いろんなことに生かしていきたいです。とてもためになりました。
- ・難しかったこともあったけど楽しくできました。学んだことを学校で生かしていきたいです。
- ・電子商取引を勉強して、ホームページの仕組みについて知ることができて良かったです。



-
- ・webページがたくさん文字でできていることに驚きました。
 - ・楽しかったです。将来役立つ内容だったので忘れずに覚えておいてしっかり使えるようにしたいと思いました
 - ・webページの仕組みを知ることができました。また、楽しく作成することができました。
 - ・入力の方についてわかりやすく教えてもらえていい経験になりました。Webページのしくみがちょっとわかったのでよかったです。
 - ・初めてだった機能が多かった。いつも見ているサイトの作り方が意外と簡単で楽しめた。
 - ・パソコンを使ってホームページを作ることの難しさ、作った後の達成感を味わうことができた。
 - ・授業の内容を楽しみながらしっかり理解できたのでよかった。
 - ・今日の授業でインターネットの仕組みがよくわかった。閲覧はよくするが、作成等の仕方を十分理解していなかったが、この授業を通して理解を深めることができた。これからの学校生活や自らの進路にもこの授業で学んだことを生かしていけるようにしたい。
 - ・私はインターネットを使うのが苦手でしたが、今日の授業では説明もわかりやすくしっかりとできたのでよかった。
 - ・ホームページ作りは初めてで楽しかったが、遅くてやることがあまりなかったのは残念だった。
 - ・とても楽しかった。入力は意外と簡単で誰でも作れるんだなと思った。
 - ・家や学校ではやらないし学べないことだったので、すごくためになった。高校でも学びたい。
 - ・webの作成はいろいろやらないといけないことがたくさんあることがわかった。一文字間違えるだけで完成させることができないなんて大変だと思った。
 - ・英語だらけの中にも一つ一つにきちんと意味があって入力していくうちに、おもしろいなと感じた。編集の仕方が細かくて、複雑なところは自分の個性が出せるのでよいなと思った。
 - ・商業関係の仕事に就くときにすごく役立つことだなと思った。少し難しかったがちゃんと入力することができたのでよかった。もし自分がこういう仕事に就く時に生かしていきたい。
 - ・普段学校では習えないようなおもしろい授業を受けることができてとても楽しかった。商業科はどのような勉強をしているのか気になっていたので知ることができてよかった。進路学習に生かしていきたい。
 - ・今日はパソコンに触れる授業ができて楽しかった。秋商の取り組みがよくわかった。積極的にイベントに参加していてすごいと思った。近くの高校なのでまた来てみたい。
 - ・初めてホームページを作ったけれど、思ったよりも深く作り込まれているんだと思った。しっかり全部打てたし、作れたし、色もしっかり変えたりできたしよかった。このことも生かし、進路を考えていきたい。
 - ・入力するのがすごく難しくてやり方があまりわからなかった。でも楽しかったのでよかった。高校生のwebページを見てとてもすごいなと思った。
 - ・今回の授業でwebページの作り方、また大変さを知った。2時間でちょっとしかできなかったのもっと打ち込む速さを高めていきたい。もっと中身の濃いwebページを作りたい。
 - ・授業を受けてみてとても楽しかったし、さらに楽しいインターネットの使い方がわかった。もっといろいろなやり方を調べてテストしてみたい。
 - ・FFFFFFで白になったけれどほかの色にするにはどこの文字をかえればよいか、また色を決めるローマ字や文字の数はどうやって決めているのか疑問に思った。
 - ・初めてこのようなURLなどを入力して、私たちが普段見たり利用したりしているインターネット

は今日打ったようなもので成り立っていることがわかった。内容は少し難しかったけど、今後のために大切なことを勉強できてよかった。

- ・今回初めてwebページを作成し、操作や仕組みを少しずつ理解することができてよかった。また商業高校ではこのようなことを学ぶことができるコースもあって驚いた。とても勉強になったのでこれから進路を決めていく上で参考にしたい。
- ・今回の授業でたった一つの文字を打ち間違えるだけでwebの作成ができなくなることを知った。だから一つ一つ正確に打つことが大切だと思った。ミスなく正確に打てるようになりたい。
- ・とても難しかった。働く上で大切なことから、しっかり今日習ったことを覚えたいと思った。もっと早くキーボードを打てるようにしたいと思った。
- ・パソコンで掲示板を開くことができなかったが、どうやってホームページを作るかなど知ることができた。あまりこのような機会はないので、今日覚えたことを大切にしたいと思う。
- ・写真が出てこなかったけれど、こういう体験をして集中力があるし、少しでも間違ったら許されないのすごいなと思った。
- ・最初は英語だけ並んでいてよくわからなかったけど、説明を聞いてその一行一つ一つにちゃんと意味があることがわかった。空白などちょっとしたミスで写真が表示されなくなったりして大変だと思った。
- ・普段みることのできるホームページは、いろいろな仕組みのもとでできているということがわかった。今まで気にしていなかったけれど、英語を使うと表示する内容を表すことができると知り、おもしろいと思った。少し難しかったけれど、ホームページが完成したのでうれしかった。これからホームページを見るときは気をつけて見るようにしたい。

授業公開週間実施報告

研 修 部

- I 趣 旨** お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。
- II テーマ** 組織で取り組む授業改善 ～生徒の発想力を高めるために～
- III 期 間** 1回目 6月13日（月）～24日（金）
2回目 11月16日（月）～30日（水）
- IV 授業するに当たっての留意点**
- ①「本時の目標」をきちんと示し、確認する。
 - ②生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する。
- V 実施方法**
- (1) 期間中、各教科代表者1名（今年度研修対象者は除く）が、アピール授業を行う。なお、商業科に関してはコースごとの代表者がアピール授業を行う。
- その際、最低1回は科会を開き、科全体で授業研究し、組織としてその授業に関わる。指導案作成は特に求めないが、作成した場合は、参観者に配付する。
- アピール授業は、時間割変更黒板の時間割に赤の蛍光ペンでマーカーをする。
- (2) 期間中、全職員が自教科1時間以上、他教科1時間以上、計2時間以上の授業を参観する。
- 自教科、他教科、各1時間でも参観したら、時間割変更黒板の職員名票に○をつける。
- (3) フリー参観形式。1時間内に複数の授業を参観してもよいが、授業時間の半分（25分）は参観する。
- ※参観する際のポイントは参観シートに記載
- (4) 参観時には『参観シート』（時間割変更黒板の下に準備）を持参し（1授業につき1枚）、記入して『参観シート提出袋』（教頭席前）に提出する。
- ※マークシートを読み取った後、授業者へ渡す。
- (5) 授業変更等がある場合
- ①期間中、出張・年次の場合は、できるだけ授業変更をする。事前にわかる場合は、研修部担当者まで知らせる。
 - ②時間割変更黒板の時間割に黒で変更後のクラス・実施場所などを書き込む。事前に知らせてもらったものに関しては、時間割に反映させる。
 - ③やむを得ず自習にする場合は、時間割に黒で「自習」と書き込む。

Ⅳ 実施状況－アンケート結果から

「第1回 授業公開週間」アンケート等集計結果（7/25）

参観者数 48人／50人（96％）

自教科 46/50（92％）

他教科 46/50（92％）

◎参観シート集計結果

参観日	人数
6月13日（月）	10
14日（火）	0
15日（水）	6
16日（木）	3
17日（金）	6
20日（月）	3
21日（火）	22
22日（水）	21
23日（木）	18
24日（金）	10
期間外	5

参観校時	人数
1校時	11
2校時	17
3校時	16
4校時	14
5校時	30
6校時	14
未記入	2

参観教科	人数
国語	11
数学	10
英語	11
地歴公民	11
理科	10
商業	39
保体	7
家庭	2
芸術	3

1 担当教科は何ですか？

国語（5人） 数学（4人） 英語（6人） 地歴・公民（3人）
 理科（3人） 商業（22人） 保体（5人） 家庭（1人）
 芸術（1人）

2 いくつかの授業を参観しましたか？

授業数	自教科	他教科
1	36人	40人
2	6人	5人
3	2人	1人
4		1人
5以上		1人
参観していない	4人	2人

「参観していない」と答えた方はその理由を記入してください。

- ・自分の授業準備に余裕がなかった。
- ・参観時期に出張などが重なったため。

3 他教科では何の教科を参観しましたか？（複数回答あり）

国語（7人） 数学（5人） 英語（5人） 地歴・公民（9人）
 理科（9人） 商業（16人） 保体（3人） 家庭（3人）
 芸術（3人）

4 「組織で取り組む授業改善」のテーマに基づき、

1) 組織として取り組むことができましたか？

- ・教科全体で取り組んだ（17人）
- ・同一科目担当者とともに取り組んだ（25人）
- ・取り組んでいない（取り組めなかった）（8人）

2) 1) で「取り組んでいない」と答えた方に → 理由を記入してください。

- ・集まろうという雰囲気がなかった。
- ・アピール授業としては取り組んでいない。
- ・時間が取れなかった。
- ・科目が違うことと大会で学校にいない間に話し合いが行われた。
- ・教科で1人なので。
- ・科会などで意思疎通が取れなかった。
- ・アピール授業の件について、終わった後にわかった。
- ・もう少し話し合いをしてほしかった。

5 実施時期及び期間に関する意見ついて、あてはまるものを選んでください。

【実施時期について】

- ・今のままでよい (42人)
- ・変えた方がよい (5人)
- (いつ頃) ・教育実習と重ならないように。
- ・年1回。
- ・大会と重なり日程的にきつい。

【実施期間について】

- ・今のままでよい (38人)
- ・もっと短い方がよい (3人) (5日・1週間位)
- ・もっと長い方がよい (5人) (3週間・1ヶ月位)

6 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容を記入してください。

- ・電子黒板を利用し、パソコン・インターネットで写し、情報を生徒と一緒に共有していきたい。
- ・グループ活動や生徒が発表者・先生となり生徒に説明する形式
- ・じっくりと行うグループワーク
- ・プロジェクトを用いた授業の目標や内容の提示
- ・BIGPADを利用した授業
- ・資格取得(検定合格)を目指しながらアクティブラーニングを取り入れた授業展開
- ・グループで取り組ませ、考え、協力、教え合いながら実施する方法
- ・指名するのではなく、生徒が自主的に発表するように流れをつくる。
- ・様々な仕掛け・ポイントがわかりやすい。
- ・生徒どうしの学び合い
- ・定着を図る小テストの時間の確保
- ・授業の流れとねらいをしっかりと分けている。
- ・パワーポイントにビデオをくっつけることができたらしい。
- ・発問に対して、きちんと答えさせるための工夫を授業の中で取り入れたい。
- ・教師のトーク力もしっかり身につけたい。

7 今後、自分の授業で改善したいと思っていることがありましたら、記入してください。

- ・グループ学習を取り入れながら、生徒に考えさせる授業を行う。
- ・発問の仕方をもっと工夫したい。
- ・本時の目標をとってつけたような形ではなく、生徒が本当に納得して授業に取り組めるよう、工夫しなければならない。
- ・生徒の反応を取り入れる。
- ・公開週間を設定していただくことで安心していろいろな先生方の授業を拝見することができ、参考になる。
- ・情報機器の利点と板書の利点を上手に融合させたい。
- ・自ら学ぶ課題や活動を授業内でどのように取り入れるかが課題である。
- ・生徒が達成感を得ることができる授業
- ・生徒が活躍することができる授業
- ・考えを発表することができる環境作り
- ・わからないところを素直に先生や周りに聞く。
- ・よい意味でにぎやかな授業
- ・黒板の使い方

提 案

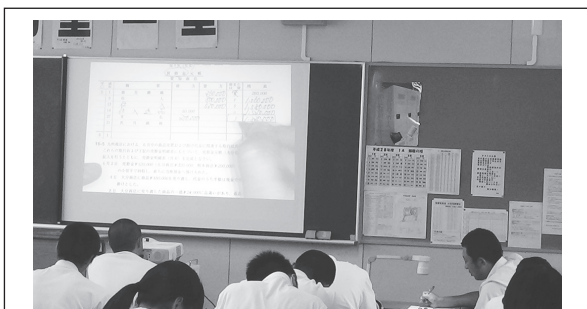
- ・授業公開月間を行ってほしい。
- ・従来の指導案形式の復活



難解と思われる物理学も身近な例を用いて人間生活と密接に関わっていることがよくわかる授業です。(科学と人間生活)



日本語との違いを考えながら、句法に留意して現代語訳しました。知識の定着もより高まります。(国語総合)



実物投影機を用いて、先生が実際に帳簿に記入する映像を見ながら学習。理解が進みます。(簿記)



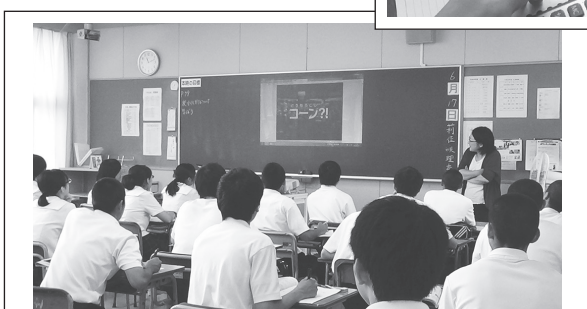
グループ学習。ちょっとした疑問点をすぐ友達に質問して解決し、納得して授業に参加していました。(簿記)



ノートの書き方で、しっかり理解できているのがよくわかります。(財務会計)



授業のwarming up activityとして洋楽を聴きとり、Matt先生の答え合わせに真剣に耳を傾けています。(コミ英Ⅱ)



どうもこしがいかに私たちの食生活を浸食しているかをユニークな映画を教材として学習。理解が深まります(家庭基礎)



紙幣の偽造防止技術を見つけながら、顕微鏡の操作方法を学んでいます。(生物基礎)

「第2回 授業公開週間」アンケート等集計結果（12/22）

授業参観者数 49人／51人（96%）

自教科 44/51（86%）

他教科 46/51（90%）

◎参観シート集計結果

参観日	人数
11月14日（月）	2
15日（火）	4
16日（水）	3
17日（木）	7
18日（金）	4
21日（月）	10
22日（火）	16
24日（木）	4
25日（金）	9
28日（月）	9
29日（火）	16
30日（水）	11

参観校時	人数
1校時	10
2校時	14
3校時	24
4校時	9
5校時	20
6校時	16

参観教科	人数
国語	9
数学	6
英語	10
地歴公民	14
理科	7
商業	33
保体	6
家庭	2
芸術	4

1 担当教科は何ですか？

国語（5人） 数学（4人） 英語（6人） 地歴・公民（3人）
 理科（3人） 商業（22人） 保体（5人） 家庭（1人）
 芸術（2人）

2 いくつかの授業を参観しましたか？

授業数	自教科	他教科
1	38人	42人
2	3人	2人
3	2人	1人
4		1人
5以上	1人	
計	44人	46人

3 アピール授業を行った回数をお答えください。

0時間（29人） 1時間（17人） 2時間（1人） 3時間（1人）

4 他教科では何の教科を参観しましたか？（複数回答あり）

国語（4人） 数学（4人） 英語（5人） 地歴・公民（11人）
 理科（5人） 商業（17人） 保体（4人） 家庭（2人）
 芸術（4人）

5 アクティブラーニングを意識した授業をしましたか？

はい（44人）86.3% いいえ（4人）7.8% 未記入（3人）5.9%

6 アピール授業の際、他の先生に相談するなど「組織で取り組む授業改善」を意識しましたか？
はい（17人） 48.6% いいえ（18人） 51.4%

7 実施時期及び期間に関する意見ついて、あてはまるものを選んでください。

【実施時期について】

- ・今のままでよい （44人） 86.3%
- ・変えた方がよい （7人） 13.7%
- （いつ頃） ・ 考査1か月前。
- ・ テスト直前。
- ・ テストから遠い時期。

【実施期間について】

- ・今のままでよい （43人） 84.3%
- ・もっと短い方がよい （7人） 13.7%（5日・1週間・10日・2週間）
- ・もっと長い方がよい （1人） 2.0%（3週間）

8 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容を記入してください。

- ・ 習塾度別の授業で基礎クラスへの丁寧な説明の必要性を改めて感じた。
- ・ 話し合いをさせることに重点を置いた授業は、自らも考えさせられ、おもしろいと感じた。発問の準備と意見の整理が大切だと思った。
- ・ 学習のねらいや生徒の実態に即した自作プリントを使った授業
- ・ 今先生の現代社会のグループワークがとても参考になった。生徒が一生懸命であった。テーマがしっかりしている。
- ・ 生徒への声かけは、アドラーのような勇気づけになっている。
- ・ クロスワードパズルを使った英語の授業
- ・ 1人で問題を解いた後に、グループを作り、どこのグループが班員全員正解を早く出せるか順位をつける授業があった。グループ対抗戦の方式をとることで、生徒も集中して良い話し合いができていた。
- ・ 家庭科の授業が導入からグループワーク→発表→まとめ→事前に行っていたアンケートの分析と授業の流れが見事だった。
- ・ グループで話し合った内容を黒板に貼ることで最終的に黒板に全体の考えが集約されていたのを参観し、学びを深める上で、とても効果的だと思った。
- ・ PC、プロジェクタを使って、イメージを視覚化させたものを見せた授業を行いたい。
- ・ 個人、ペア、グループ活動
- ・ 発表は必ず文章で答えさせる。
- ・ グループワークのグループ編成を生徒に自由に編成させる。
- ・ 生徒が書いたものを黒板に貼る。
- ・ パソコンを使ってグラフを動かし、提示すること。
- ・ わからないところをアンケートにとる。
- ・ 本時の目標を実態にあわせた文にする。
- ・ 生徒の声を聞く時間を作る。

- ・芸術（音楽）の池田先生の授業はすべてにおいて素晴らしく参考になった。
- ・授業開始時の小テスト導入を行い、授業の定着を見る。
- ・英問英答を中心とした授業の組み立て
- ・教室内でのICT活用
- ・石田先生の簿記の授業終了10分前に本時の確認テストを行っていたので、今後授業を行う上で取り入れてみたい。
- ・生徒が自発的に話し合いグループの意見をまとめていた。
- ・身近な素材を用いた実験は生徒にとっても平易なものとしてやりやすいと感じた。

9 今後、自分の授業で改善したいと思っていることがありましたら、記入してください。

- ・ALをもっと意識した授業をしなければならないと思う。
- ・しっかり説明を聞く場面、じっくり一人で考える場面、生徒同士活発に意見を言い合ったり、調べ学習をしたりする場面などメリハリのある授業にしたい。
- ・生徒がもっと発言できるように自分の説明を少なくしていきたい。
- ・話を聞く場面と話し合う場面をはっきりさせたアクティブラーニングにしていきたい。
- ・教え合わせる場面作り
- ・協力し合えるグループ作り
- ・グループ学習を行う上での効果的な教材内容やその提示の方法をもっと改善していきたい。
- ・「アクティブ」の意味を十分に理解した授業作り
- ・「本時の目標」身につけさせたいこと、学ばせたいことがリンクした授業作り
- ・ペアワーク、グループワークの工夫
- ・生徒の思考ある授業を行いたい。
- ・板書のあり方。解ってはいるが、なかなか変わらない。変えられない。
- ・板書ではなく、パワーポイントを使った授業
- ・もっと厳しさの中にも達成感のある授業を生徒のために。
- ・「本時の目標」の提示方法について模索している（より効果的に建て前ではなく、生徒が実感の伴った学びを深められるように）。
- ・英文和訳はやはり時代遅れなのか、検証したい。
- ・グループ学習を行っているが、もう少し、話し合いの時間を設けていきたい。
- ・物事をじっくり考えさせ、まず個人としての考えをしっかりと持たせる。その上で、グループで話し合わせてみる。
- ・アクティブと言いつつも、問題を解くときに「相談しながら解いてみて....」というくらいでなかなか前進できない。
- ・iPadを複数台活用したい。

10 その他

- ・ここ数年このような取り組みをし、授業改善がかなりはかられているように思う。人の授業を見て、自分の授業に取り入れる、自分の授業を他の人に見てもらおう壁がかなり低くなったと思う。そこで、次はこの取り組みの有用感を実感として思える工夫の段階ではないだろうか。

・アンケート集計のためのアンケートにならないことを願う。

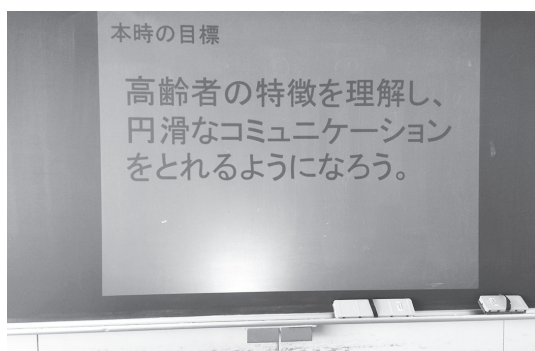
「家庭基礎」佐々木ひな子先生



班員と話し合いながら課題を進める。



様々な意見や感想を拾い上げ、黒板に書かせた。



ここで本時の目標を提示。効果的な提示でした。



最後に、事前に行ったアンケート調査の結果をグラフや表にまとめて提示しフィードバックした。

「科学と人間生活」千田義人先生



実験の手順と注意点を説明する。



正確な計量が肝腎です。



反応の様子を観察・・・。



最後に、実験結果をもとにみんなで考察した。

「体育」佐藤寛仁先生



念入りの準備運動から始まる。



実技試験にそなえて、各ペアで練習した。



寝技を練習する。



実技試験の説明。柔道部員が手本を見せる。(けさ固め→縦四方固め→横四方固め→上四方固め)

「現代社会」今 聡先生



本時のテーマは「財政の課題」
教科書で新しく出てきた語句について説明する。



グループを自由に作らせる。生徒は資料を見ながら話し合い、プリントにまとめていく。



グループ活動をサポートする。



グループごとに発表させる。



最後に、生徒の発表内容を整理して見事にまとめた。

Ⅶ おわりにー

授業公開週間は毎年少しずつブラッシュアップしている。今年度は研修テーマでも謳っている「組織で取り組む」を重視し、教科として取り組んでもらうよう呼びかけを行ったが、学校全体としての気運が高まるには至らなかった。しかしながら、教科によっては、科全体で指導案を検討し、アピール授業を科員全員で参観し、事後の研究会を行うという取り組みも見られた。このような取り組みが他教科にも広がってくれることを願う。

「素晴らしい！」の一言が素晴らしい授業を創る

－「授業公開週間」参観の記録－

商業科 保 坂 徹

1 はじめに

授業公開週間は「お互いの授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに生徒理解に役立てる」ために行っている。

このことで、自教科の授業は授業内容が教科のねらいに合っているかや、教材教具、授業構成などが適切であるかを専門教科の視点で参観している。

他教科の参観は、生徒と同じ目線で新鮮な気持ちで授業を受け、新しい知識を増やしたり今までにない考え方を知る機会であることになっていて楽しい時間でもある。

今回の授業公開では、地歴公民科の今聡先生の生徒の意欲を引き出す工夫が随所にある素晴らしい授業を参観することができた。他教科の視点で「なぜ素晴らしい」と感じたかなどを紹介することで授業公開週間の理解が深まって欲しいと思い記録を残すことにした。

2 今聡先生の授業

学年と科目	1 年C組 現代社会		
単 元 名	「財政の課題」		
本時の目標	「財政の現状」を理解し、「財政の課題・解決方法」を考察する		
指導内容の一部 (配布プリントから)		今先生の指導ポイント	
1 歳入と歳出 (歳入) = 国の収入 半分を占めるのが (税金) 直接税…所得税、法人税、相続税など 間接税…消費税、酒税など (歳出) = 国の支出 2 財政の現状と課題 (1)高度経済成長期には財政黒字 →1965年に赤字転落 (2)バブル経済崩壊 →国債発行額はさらに増加 近年の日本の歳入は、(国債)に多く依存 →将来の世代に大きな負担			
※ 3～4 人グループになって演習問題を考える。			演習 1 は、たくさん出てくると演習 2・3 の答えが広がりすぎるので一つを提案する。
演習 1 : 財政の課題を考えよう			



演習 2：その状況が続くとどんな問題が起きるか考えてみよう



演習 3：課題解決のための取り組みとして何が考えられるのだろう

確認のための最終問題（4 択）

- ①一般会計の歳入の最大項目は、国債である。
- ②一般会計の歳出の最大項目は、公共事業関係費である。
- ③租税収入の割合は、間接税の方が直接税よりも大きい。
- ④国債依存度は、1989年消費税導入にともなって一度低下した後、90年代後半に再び高まった。

振り返りと自己評価（4 段階）



演習 2 は、問題点を二つを答えさせる。

「財政の硬直化」というキーワードが出れば『素晴らしい!』と褒める。

答えが出てこないグループへは『出張しても OK です』と伝える。

演習 2 の答えを踏まえて考えさせる。

グループで確認させ、全員が正解できるように協力させる。

この時間で何がわかったのか、あるいはわからなかったのかを記入させる。

「テスト前に見直した時、ヒントになることを書かせる」のがねらい。

3 優れた授業になっていると感じたポイント

①思考の要素を工夫して組み込み、時系列化されたプリント作り

生徒に配布するプリントの構成は次のようになっている。

i 知識を付ける

グラフを読み取り、重要な用語を覚える。

ii 考えさせる

何が課題なのかを考えさせる。

解決策を考えさせ、話し合わせる。

iii 振り返り

知識が定着しているかを選択問題（4択）を作り確認している。

生徒が書くコメントは、テスト前に読み直しをさせるねらいもある。

②グループの話し合いの深まりに応じた計画的な声かけ

グループ学習の場面で、話し合いの深まりのキーワード（財政の硬直化）を想定して声かけの内容を変えている。

i ねらいのキーワードが発言されれば「素晴らしい！」と褒める。

ii 話し合いが深まっていない時は「出張してもいいよ」と移動を促し、他のグループに行くことを勧める。

4 授業参観から考えたこと

今先生がグループの話し合いを見ながら『素晴らしい！』と言うと生徒たちはうれしそうに「やった！」という表情をする。この時間だけでなく、以前からこのような声かけをしているから生徒との信頼関係が築かれているのだろうと思わせる雰囲気であった。生徒の意欲を引き出すための先生の一言の重さを感じた。

また、「うれしい」という感情は覚えたことを忘れないという効果もあるらしい。ある教育心理学の講師が『感情が記憶を深くする』と述べられていた。つまり、「やった！」などとというプラスに働く感情も、「悔しい」などというマイナスの感情も、そのときのことはよく覚えているということだ。今先生の一言が深い記憶に結びついているに違いない。

この授業は後半にグループ学習をしているので、いわゆるアクティブラーニングの形態である。生徒が活動すれば、アクティブラーニングであるような授業も見受けられるが、今先生の授業は「思考の要素を工夫して組み込み、時系列化されたプリント」と「グループの話し合いの深まりに応じた計画的な声かけ」により、興味関心を刺激し、思考判断をしながら、知識と理解を深められるアクティブラーニングである。まさしく、今先生の「素晴らしい！」の一言が、素晴らしい授業を創っている。

ビジネス実践『AKI SHOP』

商業科 櫻庭 咲子

1 はじめに

本校では平成14年度から総合的な学習の時間を活用し、全校生徒が「ビジネス実践学習」を行っている。「ビジネス実践」は学校全体を模擬会社に見立て商品開発や販売、地域貢献活動など行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動である。この活動の目的は、社会人基礎力を身に付けることであり、社会人基礎力は①前に踏み出す力②考え抜く力③チームで働く力の3つの力と定義している。

また、①自分と仲間がつながる②自分達と学校外（小学校・企業）の人達がつながる③自分達と自然がつながるといった「つながり」を大切に活動している。

2 今年度の取り組み

(1) AKI SHOPの活動を広報し、外部イベントに参加

AKI SHOPの組織の中に広報班を設け、「AKI SHOP＝物売りイベント」という外部からの印象を払拭するとともに、授業の集大成であることをアピールした。広報班の主な活動は年間を通じて各班の活動風景を写真に収めるとともに活動内容を取材し、「AKI SHOP JOURNAL」というフリーペーパーを作成して、AKI SHOP当日にお客様に配布し、各班の活動内容をアピールした。

また、地元企業が行っている「サンワ市」や



秋田みなみ農業協同組合が主催する「営農ふれあいフェア」、秋田市旭南の商店街で行われた「草市」等にも積極的に参加し、AKI SHOPの活動を広く秋田県内外の人にPRするとともに、開発商品の販売を行い、様々な地域の方に商品を購入してもらうことができた。

(2) イベントの企画とCMの作成

これまでも本部がAKI SHOPへの集客を高めるために様々なイベントや広報活動を行ってきたが、今年度は6つのイベント班とCM班を設け、多くの生徒に新しいアイデアを出してもらい、AKI SHOPを盛り上げたいと考えた。

イベント班ではステージを活用して本校生徒による「商品説明」や秋田市内の若者による「バンド演奏」を行った。また、県内の「ゆるキャラ」を集めるとともに、竿燈会と連携して「竿燈披露」やハピネッツのビッキーとフリースロー対決を企画することで、多くのお客様にAKI SHOPに来場していただくことができた。



また、CM班ではこれまでのビジネス実践の活動をPRするCMを3本作成し、AKI SHOP開催日の数日前からエリアなかいちの大型液晶画面で放映し、地域の方に活動をアピールした。

(3) ペロタクシーの運行

今年度のAKI SHOPは10月8日（土）・9日（日）に秋田市民市場、大屋根下、アゴラ

広場、にぎわい広場の4会場で実施したため、各会場をお客様が行き来するには距離が離れている。このよ



うな状況でもお客様に会場をまわってもらいたいと考え、「ベロタクシー」の運行を行った。ベロタクシーは無料で運行し、お客様の要望に応じて秋田市民市場からエリアなかいちまでを往復した。これにより、年配のお客様にも全ての会場に足を運んでもらうことができた。

(4)受託販売

毎年、秋田県産の食材を使用した菓子や総菜などの商品を地元企業と連携して開発し、販売しているが、売れ行きが好調な班や製造個数に制限がある商品を扱っている班は正午頃には商品が完売し、店じまいしてしまう。AKI SHOPを訪れたお客様からは「せっかく来たのに、もう商品がないの?」「せっかく来たのに、残念」などの声があったため、秋田市外から地元でしか販売されていない商品を各班で仕入れ、受託販売することにした。

これにより、秋田市内では販売されていない多くの商品をAKI SHOPに



来場されたお客様にもPRすることができるとともに、営業時間内に店じまいしてしまう班も少なくなった。また、生徒も商品情報や原材料など様々なことを事前に調査し、当日、お客様に自らの言葉で伝えることができていた。

3 今年度を振り返って

今年度のAKI SHOPは平成29年度に秋田市で開催される全国産業教育フェアのプレ大会を兼ねていたため、例年とは異なり2日間の開

催となった。当日はアゴラ広場やにぎわい広場など、屋外にテントを張って商品販売やイベントを行う班が多く、天候が心配されていた。1日目は大雨、2日目は突風が吹き荒れる中の販売ではあったが、両日で7,000個程用意した商品も午後3時前には完売した。悪天候の中、訪れたお客様からは「秋田商業の生徒の考えた商品を毎年楽しみにしているよ」「来年も必ず買いに来るよ」と声をかけていた。だいき、生徒たちは達成感を味わうことができたようである。



また、AKI SHOPを継続できているのはこの活動を理解し、ご協力いただける企業が多いからである。そのため、来年度もこれまでの活動を継続し、改善すべきところは改善してさらに良いものにしていきたいと考えている。前年度までの反省・課題を踏まえて新たな活動を行い、改善を図ったが終えてみるとまだまだ改善の余地があることが分かった。

ビジネス実践「AKI SHOP」は来年度も総合的な学習の時間を活用して継続していくことになるため、生徒が将来就職した際にそれぞれの会社で活躍できるように社会人基礎力を養うことができる活動にしていきたいと考えている。また、来年度は全国産業教育フェアに全国から多くのお客様が来場することになるため、商品販売やイベントを通して本校の活動の活動をアピールするとともに、秋田の魅力を発信していきたいと考えている。

平成28年度キッズビジネスタウンの取り組み

地歴公民科 今 聡

今年度は10月8日（土）、9日（日）に9年目のキッズビジネスタウンが秋田県立体育館で開催された。1日目は141名、2日目は114名の児童が県内各小学校から一般参加として参加した。今年度は、会場が学校でなく県立体育館での実施であったことや、実施日が土日であったために例年参加していただいている勝平小学校や出戸小学校が参加できなかったこと、などもあり参加人数が少なくなってしまった。

1 キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子ども達が市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。小学生が模擬的に設定された街で、市民としてハローワークに行き仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物を体験する教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は社長として子ども達の先頭に立って模擬店舗での販売などを一緒に行い、商業高校で学習した「社会の仕組み」や「ビジネスの仕組み」を子ども達に教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

2 今年度の活動

今年度は2・3年生の希望者が30名で、1人1店舗の社長として活動した。1年生の公欠は2日とも公欠の生徒以外はすべて割り振りを行った。

(1) スケジュール

- ・6月：ガイダンス、基礎学習
- ・7月：店舗の模索、決定
- ・夏休み：企業への研修、交渉等
- ・9月：求人票、マニュアルの作成
- ・10月：店舗準備、1年生へ指導、本番
- ・11月：報告会

(2) 今年度の開設店舗

年	組	番	氏 名	店 舗
3	A	7	小 玉 雄 貴	ババヘラ
3	A	9	齋 藤 元	ハローワーク
3	A	25	神 田 日菜子	ヘアメイク&ネイルサロン
3	B	12	田 中 駿 也	銀行
3	C	3	工 藤 滉 哉	缶詰販売
3	C	11	柴 田 輝	クリーンアップ
3	D	18	鈴 木 璃 空	たこ焼き
3	E	1	伊 藤 海 斗	おもちゃ屋
3	E	5	鎌 田 葵	テレビ局
3	E	6	齊 藤 飛 翔	キッズデパート
3	E	7	佐々木 駿	消防署
3	E	10	高 橋 京 平	病院
3	E	21	石 田 萌	コンビニ
3	F	34	塚 本 あかり	空港
2	A	4	伊 嶋 颯 雅	税務署
2	A	9	中 村 心	木工工房
2	A	19	伊 藤 緋 里	警察
2	A	34	原 田 暢	ドリンクショップ
2	A	37	松 本 七 海	フレンチトースト
2	B	9	杉 本 翔 太	宅配
2	C	24	伊 藤 野乃華	アイス屋
2	D	3	石 川 裕 人	はんこ工房
2	D	7	小 野 直 哉	おにぎり&焼きそば屋
2	D	23	秋 山 侑 紀	農産物販売

2	D	24	栗 津 優 衣	砂絵工房
2	D	25	板 波 明花莉	ポップコーン
2	D	38	柳 原 怜 奈	フラワーアレンジ
2	E	12	菅 原 草 太	車屋
2	E	22	櫻 来 美	アクセサリー
2	F	21	内 川 夏 音	ドーナツ屋

3 当日の様子

1 日目は、初めて使用する会場であったためスタート時は戸惑う面も見られたが、徐々に対応することができ1年生との連携も良くなり小学生が働きやすい状況がつくられていった。

2 日目はスムーズに業務に入ることができ、生徒と小学生は楽しく仕事をしていた。高校生に対しても、大変好印象を持ってくれた。アンケート項目は以下の通りであった。

＜小学生アンケートより＞

	はい	いいえ
楽しかったか	90	1
お金の大切さを実感	85	6
ものの大切さを実感	88	3
来年も参加したい	87	4

＜保護者アンケートより＞

1. 何でキッズを知ったか
 - ・過去に参加したから：10
 - ・学校からの通知：12
 - ・知人からの話：12
 - ・他：7
2. 来場した交通機関
 - ・車：39
 - ・徒歩：1
 - ・公共交通機関等：2
3. 満足度
 - ・大変よかった：27
 - ・よかった：15
 - ・物足りなかった：1



4 課題等の状況

(1)会場の案内について

今年度は、例年と異なり会場が県立体育館となり、受付とハローワークまでの距離が遠く動線も複数あったため会場内での移動がわかりづらかった。

会場案内図の設置を増やし、わかりやすい案内を徹底することで会場内がもう少し活発になったのではないかと考える。

(2)飲食店の充実

保護者からのアンケート結果を見ても「以前あったそば・うどん屋が欲しかった」「飲食店の出店がもう少し欲しい」「温かい食べ物があれば良かった」など飲食店の充実を求める声が多かった。さまざまな制約がある中での実施ではあったが、来年度以降は今年度の意見も参考にし、来て頂いた方々に喜んでもらえるように改善していきたい。

(3)来年度に向けて

産業教育フェアとの関係もあり、開催場所をはじめさまざまな面で例年以上に臨機応変な対応が求められるが、今年以上の成功がおさめられるよう準備していきたい。

ESDを意識した環境教育の試み

英語科 大 堤 直 人

1 エコロジカルビジネスの背景

国際社会では、国連ミレニアム開発目標（2001～2015年）に続いて国連持続可能な開発目標（2016～2030年）という新たな目標が掲げられ、貧困削減や気候変動対策が行われている。これは17の目標と169のターゲットから構成されており、そのターゲットのいくつかに持続可能な開発のための教育（ESD）への言及が見られる。

「持続可能な開発」については、1987年のブルントラント報告書で「将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たす開発」と定義された。こうした概念に基づくESDの特徴（世界のすべての人々と未来に生きる人々への配慮や「つながり」といった視点）は実は、本校のビジネス実践のねらいにも反映されている。

今年度の合い言葉「Think globally, act locally!（地球規模でモノを考え、地元で行動しよう!）」は、ESDのグローバルな視点を反映している。ねらいの中に位置づけられている「つながり」は、ESDで重視されている概念そのものである。

ここ数年、代わり映えがしないように見えるエコロジカルビジネス班の活動は、このような背景を意識しつつ行われている。

2 今年度の取り組み

(1)各種講座

6月16日には、秋田市環境部の「あきた次世代エネルギーパーク」見学事業により、風力発電施設と秋田市総合環境センターを見学した。それを踏まえて、6月30日には、秋田県「環境の達人」地域派遣事業により、秋田県立大学システム科学技術学部准教授の金澤信浩氏による



生物多様性についてゲーム形式で学ぶ

「3Rについて学びを深める」という講座を受講した。3Rとはリダクション（削減）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）のことで、環境省も推進している。

一方、6月23日には、一般社団法人あきた地球環境会議理事の福岡真理子氏がゲーム形式で食物連鎖や生物多様性について解説して下さった。7月14日には、一般社団法人心と文化書画詩歌財団の齋藤光子氏による「割り箸で描く書画講座」を受講した。生徒たちは割り箸に墨をつけ、詩や言葉の持つイメージを自由に描いていた。

こうした外部講師による講座とは別に、この班の担当教員も講座を受け持った。シリアでボランティア体験をしたことのある工藤教諭は「青年海外協力隊に参加して」と題して、シリアでの人々の暮らしについて話をした。もう一人の担当教員は、この班が以前に発行した本を用いて、国連や世界情勢、国際社会の取り組みについて話をした。

(2)AKISHOPでの活動

初日の午後、班の生徒たち15名のうち13名が秋田市雄和のダリア農園を訪問し、雨のなかダ

リアを摘んだ。そのダリアは、翌日のAKISHOP会場において来場者に無料配布した。

また、持ち寄った家庭の不要品を販売するフリーマーケットを開いた。6,450円の収益が上がり、国連UNHCR協会を通して難民のために寄付した。

さらに、秋田杉の廃材から箸を作成するコーナーでは、来場者が棒状の木材にヤスリをかけて自分なりの箸を作成し、講師の伊藤良治さんに仕上げてもらっていた。



AKISHOP会場でダリアを無料配布

630名以上が出席する盛大な大会であった。

なお、ユネスコスクールが全国に約1,000校あるのに対して県内には3校しかないことに、ユネスコスクールやESDに対する県内での関心度の低さが現れているが、本校の取り組みについては、県外においてそれなりに注目されている。例えば、小林亮著『ユネスコスクール——地球市民教育の理念と実践』（明石書店、2014年）の53頁には本校のユネスコスクール加盟証の写真が掲載され、同書巻末のESD関係の参考図書の中に、この班が編集した『ユネスコスクールによるESDの実践』（アルテ、2013年）が含まれている。職員室の教頭席側の入口付近に、パリのユネスコ本部から送られてきたその加盟証がかけられているので、よろしければご覧いただきたい。

3 全国産業教育フェア石川大会での発表

11月25日に金沢市で産業教育フェアが開催され、3年生の和賀毅君（班長）と佐藤慶吾君が「エコロジカルビジネスの挑戦」と題して、班の取り組みについて発表した。雄物川河川敷でのごみ拾いや由利本荘市のサステナブルハウス（持続可能な家）の見学、学校敷地内での風力発電装置の設置計画、秋田市環境部への訪問など、この発表のために多くの準備を行った。発表の最後には、「地球は人間だけのものではない。地球に暮らす生き物すべてが生き続けていくためのもの。だから、エコロジカルビジネスの考え方が必要」と述べて締めくくった。

4 ユネスコスクール全国大会への参加

12月4日に第8回ユネスコスクール全国大会（兼ESD研究大会）が金沢大学で開催され、本校を代表して保坂教諭と私が参加した。現職と前職の文部科学大臣両名をはじめとして関係者

思考力を育てる国語の授業の試み・N I E研究会参加報告

国語科 近 野 祥 子

1. はじめに

自分が高校生の時に受けた国語の授業といえば、現代文は教師もしくは生徒が朗読し、教科書下や単元末に掲載されている設問に答える。古典は先生がひたすら現代語訳を読み、教科書ガイドを持たない生徒はひたすらそれを書き写し、難解な古典文法の説明を受ける、それがスタンダードであった。古典文法が全くわからないまま「感覚」で全体の意味を把握し、センター試験を受験して6割強しか取れなかった記憶がある。情報の少ない30年前だからこそ教師の誘導は非常に重要であり、上位層の生徒はともかく、中間層以下の生徒には、どのように文章を読んでいくのかといったスキルや文法学習の意味づけが必要だったよな、と教員になった今思う。国語が苦手な生徒、何の興味を持てない生徒にこそ教師の働きかけが重要だという信念のもと、とにかく「面白くて力がつく」国語の授業を目指してやってきた。本校に赴任してからは、本校ならではの授業を展開することを目標に、「すべての土台は国語が作る」という思いで、国語に何の興味・関心もない生徒と格闘してきた。まだ2年ではあるが、研究会で得たことを含め、本校での取り組みをまとめておく。

2. 授業実践報告

(I) プレゼンテーション

東京書籍【新編国語総合】の【言語活動編】にある「調査して発表する」をアレンジし、「アンケートを実施→まとめ→分析して発表する」という授業を試みた。クラス40名を10グループ程度に分けて行ったため、実際には全グループがアンケートを実施すると煩雑になることから、「商品紹介プレゼンテーション」や「映画紹介プレゼンテーション」「漫画の効用」などいくつかの種類を設けて実施した。

①企画書を提出する。

- ・アンケート対象
(比較できるよう工夫する)
- ・アンケートを実施する目的
- ・アンケート項目を検討する。

②アンケートを作成する。

③アンケートへの協力依頼 →実施

④アンケートを集計する。

(右写真参照)

⑤結果を分析する。

⑥わかったこと、考えたことを結果と併せて発表する。



具体的な題名としては、「今どき高校生の結婚観」「自校についての評価」「旅について」など。クラス間、男女間でデータを比較し、そこからわかる考え方や価値観の違いなどを浮き彫りにし、その違いはどこから生まれるかなどについて考察して発表した。世代間比較ができればよかったが、できなかったため、参観した教員にインタビューしたり、データで世代間の違いを提示したりなどして補った。写真右上は「今どき高校生の結婚観」について発表しているところ。下は結果について生徒にインタビューしているところ。



（Ⅱ）パワーポイント de 『舞姫』

『舞姫』はご存じのとおり文語体であり、かつ長編小説であるので、やりづらい教材の一つである。しかし、今後このような文章に触れる機会もそうそうないだろうという気持ちから、年間計画にはなかったが、3年生で『舞姫』の学習を試みた。商業高校らしくパワーポイントを各自に作成させることで、「読解」部分の比重は軽くなってしまったが、生徒にとってはストレスも軽減になり、作品に対する抵抗を抑えることができたように思う。手順は以下のとおり。

- ①『舞姫』本文をクラス全員に割り当てる。
 - ②割り当たった部分について読解する。その際、前後を担当した生徒とコミュニケーションを取りながら、作品がつながっていくように協力して読解する。
 - ③一人3枚のパワーポイントをつなげていく。
 - ④一部～三部に分け、完成させたパワーポイントを生徒一人一人に説明させながら、内容を追う。
- 以下は生徒作品の一部。

- 船に残っているのは私一人である
- 五年前にサイゴンの港まで来たときは見るもの聞くもの何でも筆に任せて書きつづっていた
- 当時の新聞に掲載されていたが、ものを知っている人たちはどのように見ただろう

舞姫

森鷗外

- 今回の航路に就いたとき、日記を書いてみようと思ったノートもまだ白紙のままである

そこにはパリ風の化粧をした可愛い少女や、アスファルトの上を音もなく走る馬車やらがあつた。どれにも目を驚かされました。



でも俺はどんなものにも心を動かさないと決めているので何とも思いませんでした。

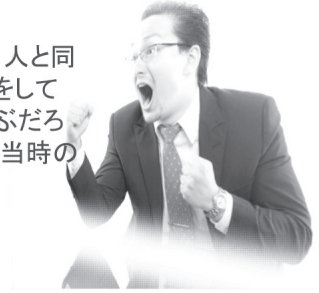
無心



官の長官は元々憲のままで使える機械を作ろうとしていたのだから。



独立の思想を抱き、人と同じではないという顔をしている男をどうして喜ぶだろう。危ないのは私の当時の地位であった。

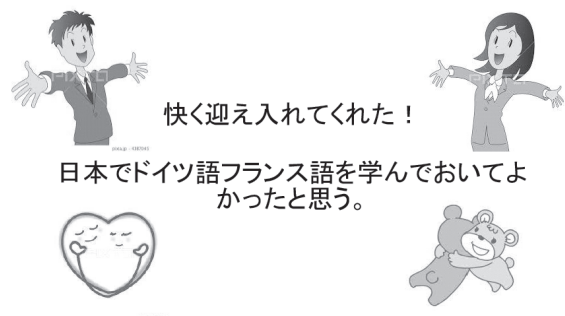


公使館に行き、日本からプロシアに来た理由を言ったら



早く迎え入れてくれた！

日本でドイツ語フランス語を学んでおいてよかったと思う。



- ⑤一部終了ごとに内容をチェックできる『舞姫クイズ』を配布し、各自内容確認を行う。
- ⑥あらすじが確認できたところで、「悪い人ランキング」や作品のテーマについての考察を行う。
- ⑦DVDの『舞姫』を鑑賞し、ラストシーンの意味について考察する。

（Ⅲ）絵巻で知る「奥山に猫また」

「奥山に猫また」という作品は、助動詞「なり」の判別や音便、格助詞・同格の「の」や推量の「む」など、文法を学習するには適した教材であるが、助動詞の体系的な学習をしていない本校生徒にとっては学習へのモチベーションが下がる教材である。そこで、この際、文法に関わる部分はこちらで説明するにとどめ、まずは全体の文意をとらえることを目標に、「絵巻」を作成して発表する授業を試みた。写真は、実物投影機を用いて生徒が作成した「絵巻」を映し、ストーリーの説明を加えているものである。



3. N I E研究会に参加して

本校では毎年、3年生の2学期はじめの1週間、新聞を購読し、記事を選んで意見文を書くという取り組みをしている。昨今は新聞を購読していない家庭も増えており、やりづらい面もあるが、就職試験対策という意味もあって継続しているようである。

昨年度は全国大会が本県で行われた。この時代、ニュースの伝達の速さはなんと言ってもインターネットにかなわないわけだが、ではなぜ今新聞なのか。そういう疑問を持ちながら研究会に参加した。

模擬授業では、リオデジャネイロオリンピックで銀メダルを獲得した吉田沙保里選手の記事を2社取り上げて比較し、「本人がこの記事を読んだら、どちらがショックだろうか」という視点で、タイトルや写真、本文を比較検証を行った。



結果的に、タイトルや写真を見た段階の最初の印象と、本文すべてを読み終えた後の印象に変化があった。授業はそれを意図した授業案だったようだが、その結果を受け、「新聞をどう読むか」が今さらながら分かってきた。新聞は出来事の伝達のみではなく、その出来事を書き手がどう捉えたかというメッセージが込められている。どの写真を用いるか、全体としてどう編集するかがスピード勝負の中で考えられて作られている。それらと比較したり、それに対して自分の意見を持ったりすることは、間違いなく読みを深める。見出しだけを見ておおよその内容は掴めるが、やはり新聞は記事を最後まで読まないといけない、そう感じた。

4. まとめ

これまでの教職経験から、どの学校でも「手軽に」「簡単に」「手早く」点数が取れるようになりたい、学びたい、という指向が強く、どんな方向からの問いかけにも耐えうる強靱な思考力をつける必要性を感じながら、それをなかなか生徒と分かち合うことができず、悶々とする場面が多々あった。どの教科も、その下支えとなるのは思考力であり、思考力と知識が積み重なって、力強い学力が身についていく。本校は全県唯一の商業高校であり、その教科の特性から、どうしても物事を「損得」ではかったり、すぐに結果を求める傾向が見られる。そんな生徒たちに、実社会で必要とされる「思考力」「表現力」を身につけさせるのは必至であり、同時に困難でもある。本校に赴任して2年が経過した。「つけさせたい力」を見失うことなく、本校ならではの授業展開を模索しながら、「楽しくて力がつく」授業を今後も展開していきたい。

高等学校教職5年経験者研修講座報告

数学科 佐々木 絵 里

<期日・場所・日程・内容>

【高等学校教職5年経験者研修講座Ⅰ】

平成28年6月15日（水）

秋田県総合教育センター

○10：00～10：10

オリエンテーション

（鈴木修一 主幹）

○10：10～12：00

生徒理解と人間関係づくり

（堀川修 主任指導主事）

○13：00～16：15

これからの高等学校に求められる授業改善①

（小松田哲也 指導主事）

【高等学校教職5年経験者研修講座Ⅱ】

平成28年9月2日（金）

秋田県総合教育センター

○10：00～12：00

教師が使えるカウンセリングの技法

（熊谷有紀子 指導主事）

○13：00～15：00

これからの高等学校に求められる授業改善②

（椎名美穂子 指導主事）

○15：10～16：15

学校教育目標とホームルーム経営

（大山厚 指導主事）

<研修の目標>

授業改善、生徒指導等の専門的な事項についての研修を通して、実践的な指導力の向上を図る。

<報告>

平成23年に採用されて早いもので5年が過ぎた。研修は私たちから初任者研修、授業力向上研修（3年目・8年目）、5年経験者研修、10年経験者研修と11年の間に5回行うことになった。研修の回数が増え、以前の研修を行った先

生方とは内容が少し異なり、今回の研修では授業研修が行われなかった。そのため、校内で行われた授業公開週間を利用し、アピール授業を行った。

この研修では、教科指導やホームルーム経営、対応の仕方について見直すことができた。教科での協議では数学の理解力に差がある場合、授業でどのように指導するかが最終的な論点となった。私は、進度も考えクラス全員が理解する前に次の単元に進めている。そのため、理解ができなかった生徒へ放課後に補習をしたり、プリントを配布したりしていた。それを授業だけで指導できないかということであったが、結論は出なかった。多くの先生方が工夫しているが、クラス全員が理解するとなると非常に難しい問題である。本校では全学年で習熟度別授業を行っておらず、クラスの中での理解力に大きな差がある。数学は過去の既習事項を繰り返し利用し、新しい単元を習得していく教科であり、小学校や中学校で理解できなかった場合、高校の内容を理解するのは容易ではない。そのような生徒に対し、授業だけで理解させることができるのか。このことについて、結論は出ていないが誰もが今後も考えていかなければいけない課題である。

カウンセリングについては初任者研修からいわれていることであるが、話をする上で生徒や保護者に対する言葉遣いや話し方一つで相手の態度や捉え方が大きく変わってくることを改めて学ぶことができた。毎年、三者面談等を行っていることもあり、非常に参考になった。

教員になり6年が過ぎようとしているが、まだまだ学ぶことが多く、これからも日々研修しなければならない。10年経験者研修まで上記にあげた課題を解決できるのか考えながら授業改善に努めていきたい。

高等学校授業力向上研修講座（８年研）を受講して

商業科 小 西 一 幸

期 日 平成28年10月 3 日(月) ～ 4 日(火)

場 所 秋田県総合教育センター

概 要 若手教員同士による授業分析や採用 3 年目の教員への助言などの実践的な研修を通して、採用 8 年目の教員の授業力向上を図ることを目的とした研修講座。

事前準備 6 月～9 月中旬に実施した授業に関わる学習指導案（略案可）と授業を録画した DVD（パソコンや DVD プレーヤー等で再生可能なことを確認すること）を作成し事前提出する。

感 想 授業を含め研修においては、改めて教科指導の難しさと奥深さを感じることができました。今回は事前準備の段階で 2 つの研究授業を行いました。1 つはビジネス基礎の指導にて「動画等の補助教材の有効活用」について研究実践をし、もうひとつはプログラミングの指導にて「アクティブラーニングによる主体的学びの促進」を研究実践しました。
どちらの研究授業もこの先の授業のあり方を考えさせられるいい機会となりました。

第1学年D組 商業科(ビジネス基礎)学習指導案

平成28年9月13日 火曜日 3校時

指導者：小西 一幸

使用教科書：ビジネス基礎(実教出版)

1. 単元名 第3章 ビジネスの担い手 4 卸売業者

2. 単元の目標

流通の中心とも言えるべき卸売業者の役割を理解し、地域経済の基盤であることの重要性を認識する。また、小売業者との決定的な違いを考察し、減少傾向にある卸売業者が自身の強みを生かし、今後どのような策を講じていかなければならないかを考えさせる。

3. 単元と生徒

(教材観) 流通の仕組みを理解し、将来のビジネスの担い手としての心構えを身につけさせる。

(生徒観) 授業に集中して臨むことができる生徒である。グループ学習の際は活発に意見交換をしている。

(指導観) 小売業者と違い、身近に感じることがないと思われるため、秋田の具体例を挙げて理解させる。

4. 指導と評価の計画 (省略)

5. 本時の計画

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5)	- 映像を見る - 配布物の確認	- 動画に集中させる - 本時の内容を提示する。	
展開 (40)	本時の目標 卸売業者の役割について理解を深める		
	- 動画と教科書も用いて、重要語句の確認や卸売業者の種類をプリントに記入する。 - 卸売業者が減少傾向にあることを理解する。	- 秋田の農産物を例にして卸売業者の役割を確認させる。 - 大手小売店の物流を例に出して、卸売業者の現状を伝える。	プリントやノートに必要なことを記載している。 (関・意・態) ノート提出
	Q 卸売業者が必要とされるための「次の一手」を考えてみる		
	- 班ごと(4人)に考えを出す。 - 班の代表者が発表する。	- ヒントを提示する。 - 班になる指示を出す	話し合いを円滑に進め、意見をまとめている。 (知・理) 机間指導及び観察
まとめ (5)	本時の内容を授業者とともに確認させる。	本時の目標を達成したか確認させる。	

6. 協議の視点

- (1) 動画(NHK for School、NHK高校講座、日経ビジネスオンデマンド)を授業に用いることについて。
- (2) ビジネス基礎の授業をどこまで深めてやったらいいか。(標準単位2でなにができるか。)

第2学年E・F組 商業科(ビジネス情報)学習指導案

平成28年9月30日 金曜日 5校時

指導者：小西 一幸

使用教科書：ビジネス基礎(実教出版)

1. 単元名 ソフトウェアを活用したシステム開発 第3節 表計算ソフトウェアによる開発

2. 単元の目標

ビジネスに関する情報を効率よく処理するための手法を身につけさせる。表計算ソフトウェアのプログラミング機能を用いて、課題解決の過程から論理的に考えることを意識させるようにする。

3. 単元と生徒

(教材観) 課題解決の過程から、解決ロジックを導くことに適した内容である。プログラミングの基礎でもある。

(生徒観) 授業に集中して臨むことができる生徒である。情報処理の学習には特に意欲的である。

(指導観) 論理的思考を養うことを前提とし、プロジェクト学習を意識して指導にあたる。

4. 指導と評価の計画 (今回は省略)

5. 本時の計画と目標

- ・直角三角形のアルゴリズムを考えることができる。(思考・判断・表現)
- ・完成したアルゴリズムをプログラミングできる。(技能)

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5)	・本時の課題を確認する。	・課題の提示と、本時の進め方について確認させる。	
展開 (40)	本時の目標 直角三角形を作成するアルゴリズムを考え、プログラミングできる。 発問 指定した段数の直角三角形を表示するプログラムを作成しよう。		
	○個人活動 ・4種類の直角三角形の図からアルゴリズムのヒントになりそうなものを読み取る。	・読み取り結果を論理的に説明できるように指示する。 ・自分の言葉で表現するように伝える。	・プリントに必要なことを記載している。 (思・判・表) ノート提出
	○ペア活動 ・お互いに読み取ったことを教え合う。	・読み取った結果が同じであっても必ず自分の表現したことを相手に伝えるように指示する。	
	○グループ活動 ・アルゴリズムを考えて、プログラミングする。	・各自でプログラミングするように指示する。 ・お互いの進捗状況をチェックさせる。	・アルゴリズムをプログラミングできている。 (技) 机間指導及び観察
まとめ (5)	・班ごとにアルゴリズムを発表 ・本時の内容を授業者とともに確認する。	・本時の目標を達成したか確認させる。	

目指す生徒の姿 課題に対してその分析結果を論理的に考え、論点整理して相手に伝えることができる生徒

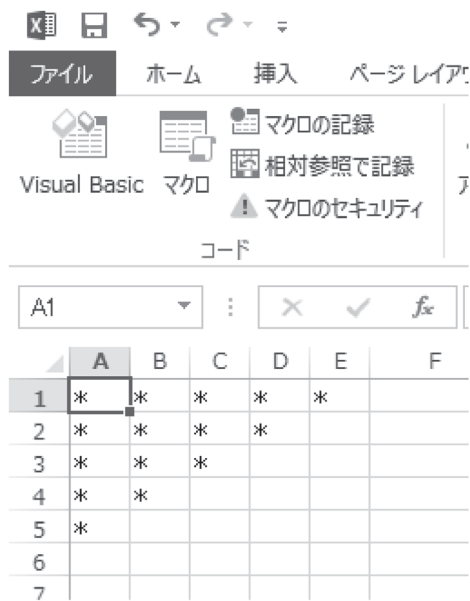
2 年【 】組【 】番 氏名【 】

ビジネス情報 実施日 H28/9/30・5 校時

第 5 章 ソフトウェアを活用したシステム開発 3 表計算ソフトウェアによる開発

本時の目標 直角三角形を作成するアルゴリズムを考え、プログラミングできる

<<実行結果>>



<<自分の考え>>

////////////////////////////////////

<<ペアでの考え>>

////////////////////////////////////

<<プログラム>>

```
1 Sub 三角形その1()  
2     Dim x As Integer  
3     Dim y As Integer  
4     Dim z As Integer  
5     (空白行)  
6     z = InputBox("1～5の数字を入力してください")  
7     (空白行)  
8  
9  
10  
11  
12  
13 End Sub
```

<<流れ図>>

<<参考資料>>



Sub 復習()

Dim x As Integer

Dim y As Integer

Dim z As Integer

z = InputBox("1～5 の数字を入力してください")

```

For x = 1 To z
    For y = 1 To x
        Cells(x, y) = "*" ②
    Next y
Next x ①

```

End Sub

①段数を調整する繰り返し（行数を調整）

②「*」を表示する処理

高等学校教職10年経験者研修報告

10年を振り返って

英語科 営 生 あずさ

センター研修最後となるV期に行われた講座で、「キャリアふりかえりシート」を使い、この10年を振り返る演習があった。その中で「仕事満足度」をプラス・マイナスで評価し、バイオリズムのように視覚化した。前任校では、採用後2年で初めて担任をすることになった時、指導力の無さや責任の重圧から自信喪失に陥り、卒業させるまで苦しいことが多く、卒業後も後悔が残った。2度目に1年生の担任をすることになった時、生徒も自分も気持ちよく卒業させたいとの思いで仕事に取り組んでいたが、異動で本校に赴任することになった。気持ちが前向きになっていたところでもあり、本校では前任校でやりたいと思っていたことを全てやり切ろうという気持ちで、再スタートを切った気分であった。

本県は法定研修の他に、教職経験に応じた研修として5年研に加え、『授業力向上研修』として3年研や8年研も実施している。そのためほぼ毎年研修を意識しなければならない環境に置かれていたとも言えるが、そのお陰で授業改善や学級運営の向上に取り組むことができた。5年研の年は5年研で行う研究授業の他に高教研の全県大会で公開授業があり、これ以降の授業改善に取り組む上で良い経験となった。個人的に取り組んだこととしては、英会話学校に通い、TOEICに挑戦したことや、2015年に英語教員の海外研修に参加したことが挙げられる。この海外研修ではオランダとフィンランドの小中高の授業を参観することができた。オランダではモンテッソーリ教育やダルトン教育を行う学校を視察したが、移民の多い国ならではの授業や英語教育への取り組みを視察した。フィンランドは学習到達度調査(PISA)で上位に入る国だが、ある小学校は廊下にマットやソファを設置して休み時間だけでなく授業中にも利用させていたり、またある高校では立ったまま利用できる机での授業を行ったりと、驚くことが多かった。また、年上の生徒が他の生徒の学習支援を行うことで、アクティブ・ラーニングが行われると共にリーダーの育成を行っていたことが強く印象に残っている。また、両国とも英語学習用の教材が豊富で、ネットワークを通じて教師だけでなく生徒も自由に活用できる環境にあった。

これまでは授業改善の為の研修が多かったが、10年研で一貫していたことは「プロとしての教師」として、あるいはミドル・リーダーとしての役割を果たすことが求められているということである。先述の講座で「私の教員としての使命(ミッション)」という演習も行った。10年間で様々な仕事に携わり、経験してきたことから必要最低限はやりたいと思うことが見えた気がした。最後の研修に「教育公務員の服務」という講座があったことから、慢心せず誠意を持って職務を遂行すべしというメッセージが感じられた。

前任校でできなかったことは、そのまま生徒にとっては不利益となり、同職した先生方にもご迷惑をお掛けしていたはずだ。しかし、このような経験があったからこそ、その後の研修や授業改善にも真摯に取り組むことができ、報われることも少しずつ増えて、この10年を過ごすことができたのだと思う。The darkest hour is just before the dawn. (夜明け前が一番暗い) となるよう、これからも誠心誠意取り組んでいきたい。

Ⅱ 校内年間研修報告書

秋田市立秋田商業高等学校

研修教員：菅生あずさ（英語科・1年C組担任）

校 長：佐藤 武

教 → 教科指導等研修

生 → 生徒指導等研修

実施月日 (曜日)	研 修 内 容	研修方法・形態	全体・個別の区別	時間割内・放課後の別	研修時間	研 修 指 導 者
4/15(金)	10年研修の進め方	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	研修主任
5/6(金)	教育目標の達成と学校経営について	生 講義→一般研修	個別	内(3)・放	2	校長
9(月)	高校教育の現状と課題	生 講義	個別	放	2	教頭
17(火)	法規に関する事例研究	生 講義→一般研修	個別	放	2	教頭
18(水)	P T A・地域との連携について	生 講義→一般研修	個別	放	2	総務主任
6/7(火)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	2	体育科主任(教育実習生)
10(金)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	2	体育科主任(教育実習生)
15(水)	授業参観と助言	教 授業指導	個別	内(3)・放	2	体育科主任(教育実習生)
16(木)	授業参観と助言	教 授業指導	個別	内(4)・放	2	体育科主任(教育実習生)
17(金)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(6)	1	英語科主任
20(月)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(5)	1	英語科主任
23(木)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(3)	1	英語科主任
24(金)	授業実践に基づく授業研究	教 授業研究	個別	内(1)・放	2	英語科主任・科員
7/4(月)	教育課程の編成・教務内規について	生 講義→一般研修	個別	放	2	教務主任
5(火)	生徒分析と個人面談計画の作成	生 講義→一般研修	個別	放	2	学年主任
6(水)	個人面談実践に基づく研究	生 一般研修	個別	放	1	学年主任
21(木)	保健室利用の実態について	生 講義	個別	放	1	養護教諭
9/21(水)	生徒指導に関する事例研究	生 一般研修	個別	内(4)	1	生徒指導主事
30(金)	校内研修「アクティブラーニング」	教 講義	全体	放	3	外部講師
10/17(月)	部活動・生徒会活動に関する事例研究	生 講義	個別	内(5)	1	特活主任
27(木)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(3)	1	英語科主任
28(金)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(2)・放	2	英語科主任・科員
11/11(金)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(1)	1	英語科主任・研修主任
22(火)	授業実践に基づく授業研究	教 授業研究	個別	内(3)・放	2	英語科主任・科員
24(木)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	1	英語科主任(若手教員)
25(金)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	1	英語科主任(若手教員)
28(月)	授業参観と助言	教 授業指導	個別	内(3)・放	2	英語科主任(若手教員)
12/7(水)	特定課題研究の中間まとめ	生 一般研修	個別	放	1	研修主任
1/16(月)	校内研修「メンタルトレーニング」	生 講義	全体	放	2	外部講師
18(水)	選択研修の成果と課題	生 講義	個別	内(5)	1	校長
25(水)	進路指導の現状と課題	生 講義	個別	内(4)	1	進路指導主事
2/23(木)	特定課題研究の成果と課題	生 一般研修→講義	全体	放	2	校長以下全員

実施日数 合 計	研修方法・形態別の研修日数 (時間数)				時間割内 研修時間計 (a)	放 課 後 研修時間計 (b)	研 修 時 間 合 計 (a + b)
	講 義	授業研究	授業指導	一般研修			
32	14 (18)	8 (11)	7 (12)	10 (10)	18	33	51

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 菅 生 あずさ
研 修 先	日本国花苑（井川町）		
研 修 期 間	平成28年 8 月 8 日（月）～平成28年 8 月10日（水）		
1 研修の概要			
8 日（月）	9：00～11：30	館内清掃	
	13：00～16：45	キャンプ場施設内清掃	
9 日（火）	9：00～11：30	館内清掃及び花壇整備	
	13：00～16：45	花壇整備	
10 日（水）	9：00～11：30	館内清掃	
	13：00～16：45	苑内除草作業	
2 研修の成果			
幼い頃から慣れ親しんできた苑内にある定住促進センターという施設で、「地域の産業について理解を深めるとともに、その活性化を図ることを目指すことで地元貢献する」ことを目的として取り組んだ。 1 日目は休館日で、午前中に月に一度の館内清掃を行った。入浴施設が併設されているので、3名の職員の方たちとそれぞれ清掃する箇所に分かれて清掃を行った。少しでも利用者の方に気持ちよく利用していただきたいという思いを持ち、見えにくく気づきにくい箇所も丁寧に清掃した。高齢化と人口減少が進む中で、エレベーターの必要性やトイレも2階にあった方がよいなどの意見が出ているというお話を聞くことができた。午後は苑内にあるキャンプ場の施設の清掃を行った。清掃しながら、無料の施設で管理者が常駐していないせいかマナーの悪い利用者がいることや、若者の溜まり場になりやすいことから警察に見回りをお願いしていることなどを伺った。 2 日目は開館前に軽めの清掃を行い、その後は花壇の整備を行った。園芸の知識はほとんど無いため、作業の仕方を教わりながらの作業であったが、みための美しさだけでなく少しでも長く花を付けられるよう注意しながら作業した。 3 日目は午前中にゴミ箱の洗浄を行った。作業しながら「ブローケン・ウィンドウ理論」が頭に浮かび、小さなことでも丁寧に取り組むことの大切さを改めて思うことができた。 3 日間を通して、町が行っている施設の拡充とそれに伴う働く場の提供など、努力していることを知ることができた。しかし、広報活動の改善点や今ある施設の有効活用など問題点が見つかったことも事実である。井川町は縮小した産業もあるが、新たに生まれた産業もある。高齢化と人口減少がもたらす影響に目を向け、人材を含めた”資源”の有効活用や、町内だけでなく町外と連携していくやり方を見いだして地域の活性化に繋げる必要があると痛感した。 教員としての立場から、地元根付き活性化に尽力できる人材の育成を目指していかなければならないと感じさせられたことは、非常に有意義な研修であった。			

特定課題研究レポート

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 菅 生 あずさ
研究分野	A 教科指導 Ⓐ 学級・学年・学校経営 C 生徒指導 D 進路指導 E 特別活動に係る指導 F 総合的な学習の時間に係る指導 G 特別支援教育に係る指導 H その他		
研究テーマ	生活記録および学習記録とその成果		

1

研究の概要

生徒は定期考査前に考査の目標を決める。目標は全体を通したものと、各教科ごとのものとそれぞれであり、それを達成するための学習計画を立てる。また、考査前1週間と考査期間中1週間の計2週間の生活状況と学習状況を記録する。

生活状況は起床・就寝の他、学習した科目と時間帯を記録する。記録期間中は毎日「振り返り」を記入し、自分の生活状況や学習状況を把握できるようにする。

提出は考査2週間前、考査1週間前、考査終了後の3回行う。考査終了後の提出時は、実際の考査得点や全体の反省を記入した状態にする。なお、自分の考えを文章にして表現する練習とすることも伝え、「振り返り」や反省は書き言葉で書くことや、具体的に書き表すことをルールとしている。返却時はコメントを添え、必要に応じて学習のアドバイスを行う。また、学習時間は提出するごとに棒グラフにして教室に掲示した。

2

成果と課題

生徒は初めこそ面倒に感じていたようだが、1学期中間考査期間中の1回目の返却時にコメントが書かれてあることに驚き、喜んでくれたことが印象的であった。これ以降、多少面倒でも記録してくれるようになった。また、他の生徒の学習時間を意識することで、自分の学習に対する取り組み方を見直すきっかけになっているようだ。さらに、目標が達成された時は自己肯定感や自信に繋がり、目標を達成できない場合でも「次は頑張ろう」という意欲向上に一役買っているように感じられる。

具体的な成果としては、2学期末において学年平均65.7点に対してクラス平均点68.2点と、学年上位で推移している。欠点保有者数も2学期末にクラス内で最多の4名となったが、学年の中では少ない方であった。これは単にこの取り組みをしているからということではなく、部活動単位で考査に向けた学習時間の確保や、教科担任からの学習支援も大きな要因であると言える。

この取り組みを通して、学習時間の長い生徒が成績上位者となっているわけではないことが分かった。しかし、上位者は計画や手立て、記録内容がより具体的であるようだ。また、成績不振者は記録を取れていないことや、提出しないことが多い。記録の仕方が分からなかったり、表現力が追いついていなかったりすることが考えられ、成績不振者に対する記録方法の指導が課題となっている。また、学習時間が少なくても点数を取れることもあり、学習に対する取り組みそのものが甘い生徒も少なくない。こうした生徒の意識を変えていくこともまた、課題である。

(A 4判1～2枚程度、研究にかかわる資料等があれば添付すること)

Teaching Plan for Communication English I

Date: Sep. 13 (Thu.), 2016 2nd period

Place: 1E classroom

Instructor: Hideaki Sugawara (Nikaho High School)

Azusa Sugo (Akita Commercial SHS)

1 Textbook

BIG DIPPER English Communication I (SUKEN SHUPPAN)

LESSON 5 Better Designs for More People

2 Aims of this lesson

(1) To make students understand the good points of common designs, for many kinds of people.

(2) To discuss how to achieve a better society through designs, with other students.

3 About the students

Due to their high ability and motivation for learning, they have a higher level of English among the 1st-grade. Most of the students will listen to us carefully and are willing to learn English with a relaxed atmosphere.

4 Allotment

1st period: Introduction (Today's lesson)

6th & 7th period: PART 3

2nd & 3rd period: PART 1

8th & 9th period: PART 4 SUMMARY

4th & 5th period: PART 2

10th period : REVIEW & Drills

Interest (A)	Ability to Express (B)	Ability to Understand (C)	Knowledge (D)
(1) Try to tell us what they already knowabout UD. (2) Try to tell us and share what they think about UD.	(1) Make a summary for each section. (2) Make sentences grammatically. [Grammar Points] A. Comparative B. Superlative C. Present Perfect D. SVO to do	(1) Understand what the difference between UD and BF is. (2) Notice how each of the UD good anduseful.	(1) Understand why UD is necessary around the world. (2) Understand that UD is used not only in things or space, but also in our way of thinking.

5 Teaching Procedure (UD = Universal Design, BF = Barrier-Free Design)

Procedure (Time)	Activities		Skills	Evaluation
	Teachers (T)	Students (Ss)		
Greeting (1')	• Show Today's Aims Today's Aim: (1) To understand the concept and the advantages of UD. (2) To understand the topic of each part;to describe what UD is in English.	• Check Today's Aims.	R	
Warm-up (3')	• Show the Ss some examples of designs. • Have the Ss think about the visibility and the simplicity.	• Think about the meanings of the color combinations and the pictograms.	SLR	
Group work (10')	• Show the Ss 8 pictures and have them divide into UD or BF. Q: Who needs these designs? • Have the Ss understand that UD includes BF.	• Divide 8 pictures into UD or BF. • Think about who needs these designs.	SLW	• A-(2)
Comprehension (10')	• Play the CD, have the Ss make the chartin the textbook.	• Listen to the CD, make the chart in the textbook, in groups.	RW	
Consolidation (20')	• Check the answers. • Have the Ss practice reading . • Have the Ss say the topic sentences.	• Practice reading. • Memorize the topic sentences. • Say the topic sentences.	SR	• B-(1)
Closing (1')	• Greeting	• Greeting		

高等学校教職10年経験者研修報告

～これまでの10年を振り返って～

商業科 櫻庭 咲子

1. はじめに

11年前、教員採用試験に合格して初めて赴任したのが秋田商業高校で、それから1度も他校を経験することなく現在に至っている。同期の教員でも私のように同一校で10年経過している人はとても少ない。秋田商業高校に赴任した当初は、単独商業高校で勤務できる喜びや期待よりも不安が大きかったことを今でも鮮明に覚えている。あれから10年という時間を教諭として過ごし、今年度は10年経験者研修に参加することでこれまでの教員生活を振り返えるとともに、これからミドルリーダーとしてやらなければならないことを明確にすることができた。

2. これまでの10年

この10年で3回卒業生を出し、商業高校ならではの科目を担当し、県商研に携わる中で多くの経験をさせてもらった。クラス経営の中で特に印象に残っているのは、平成24年度に卒業した生徒たちの学年である。それまでの秋田商業高校は就職・進学に関して100%進路を実現していたが、新たな取り組みとして国公立大学に公募制推薦で進学させるという目標を掲げ、生徒を合格させるためのノウハウの修得に努めた。商業科目を学び、資格を取得することで受験可能な国公立大学を調査し、日本地図に出願基準を明示して廊下に掲示したり、国公立大学に出向いて過去問や出題傾向を入試担当者に尋ねたり、国公立大学に多くの生徒を進学させている他県の高校を視察に行ったりした。そして、生徒に対して様々な手立て・対策を講じた結果、16名の生徒を合格させることができ、その経験はその後の進路指導に生かすことができていく。

また、総合的な学習の時間を充実させるためにキッズビジネスタウンを導入したり、AKI SHOPや県商研の仕事を任せられたりすることで、企業の方や他校・他県の先生方と接する機会が多くなり、様々な話をする中で多くの情報や知識を得ることができ、さらに人脈を作ることができた。この経験から仕事をする時は必ず到達目標を設定してその実現に向けて計画を立て、時間をうまく活用することで、複数の仕事を同時に遂行する力を養うことができ、さらに人脈を生かすことで仕事がスムーズに遂行できるということを実感することができた。

3. これからの使命

10年経験者研修を通して、これからはミドルリーダーとして若手教員の指導を行っていくとともに、学校経営にも積極的に参画していく必要があると感じた。そのためには、客観的に物事を俯瞰する姿勢を持ち、自分の考えや意見を相手に簡潔に分かりやすく伝えていかなければならない。そして、自分で仕事を行うだけでなく、仕事を周りに振り分け、その業務が円滑に進むように指導・助言を行っていく必要がある。

特に、商業科の教員として次期学習指導要領の改訂ポイントを踏まえ、自己の教科指導力を高めることはもちろんだが、商業教育の発展・充実のために若手商業科教員の能力向上を目指した取り組みに尽力するとともに、生徒の進路実現に向けたノウハウを引き継いでいくことが求められる。また、学校経営については職員全員で考え、目標達成に向けて全力で取り組む必要があるため、積極的に参画し、学校教育の充実に努めていきたい。

第2学年26R 「原価計算」学習指導案

日 時：平成28年9月13日（木）2校時
場 所 教室名：26R教室
授 業 者：櫻庭咲子
使用教科書：原価計算（実教出版）

1 単元名 第6編 直接原価計算の基礎

2 単元目標 変動費だけで製造原価を計算し、利益計画に役立つ資料を提供する直接原価計算について理解する。

3 単元と生徒

(1) 教材観

これまで学習してきた原価計算とは原価の集計方法が大きく異なるため、教科書や問題集だけではなく、自作プリントを活用して理解度を高めることを目指している。

(2) 指導観

初めて学習する単元であり、グループ学習をしながら理解を深めたいと考えている。また、直接原価計算を行うことで、原価管理や利益計画に必要な資料を作成していることも理解させたい。

(3) 生徒観

4月から3単位でスタートしており、男子13名、女子22名が在籍している。真面目に授業に取り組んでいるが、活発さに欠ける。また、1年次で商業簿記に対する苦手意識を克服できなかった生徒もあり、基礎的な内容は理解できるものの、応用的な内容に入ると答えや説明を待ってしまう傾向がある。

4 指導と評価の計画（6時間）

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 利益計画と直接原価計算 | 3 CVP分析（2時間） |
| 直接原価計算の特色（本時1／1時間） | 4 損益分岐図表（1時間） |
| 2 直接原価計算の手続き | 5 原価予測の方法（1時間） |
| 直接原価計算による損益計算書（1時間） | |

【評価規準】

関心・意欲・態度（A）	思考・判断・表現（B）	技能（C）	知識・理解（D）
直接原価計算を利用した原価情報の活用について関心を持ち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組もうとする。	直接原価計算では、変動費だけで原価を計算する理由や損益分岐図表で売上高線や総原価線を動かす意味を考え、原価管理や利益計画について理解しようとしている。	直接原価計算を利用した原価情報の活用に関する基礎・基本的な技術を身につけ、それを仕訳や勘定記入、損益計算書に示すことができる。	直接原価計算を利用した原価情報の活用に関する基礎・基本的な知識を身につけている。また、直接原価計算に関する基本的な会計理論を理解している。

5 本時の計画

(1) ねらい 直接原価計算が必要な理由を考察し、必要性を理解する。

(2) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価
導入 5分	本時の学習内容とねらいを把握する。 本時の目標：直接原価計算の特色を理解する。	・目標を提示し、確認させる。	
展開 40分	直接原価計算が必要な理由を考えるため、プリントの前提を熟読する。 発問1：販売価格、販売台数、コストも削減せず、損失を回避する方法を考えよう!! 【発問1】の結果を踏まえ、矛盾点を模索する。 発問2：製造するだけで損失が減る。でも何か変では!? 直接原価計算の特色を理解する。	・【前提】で重要なことを黒板に明示し、経営者の立場に立って【発問1】をグループで考えさせる。 ・【発問1】の結果を活用し、矛盾点を考えさせ、直接原価計算は変動費だけで製造原価を計算することを理解させる。 ・直接原価計算の特色を経営者の立場に立って考えさせる。	・経営者の立場に立って損失を回避する方法を個人で考え、その後グループごとに意見を集約して発表する。(B) ・【発問1】の結果をもとに、矛盾点を真剣に考え、プリントにまとめている。(A) ・グループごとに意見を他者にわかりやすく伝えていく。(B)
整理 5分	本時の学習内容の要点を確認する。	・本時の学習内容をまとめさせるとともに、次回の授業内容を伝え、動機付けを行う。	

Ⅱ 校内年間研修報告書

秋田市立秋田商業高等学校

研修教員：櫻庭 咲子（商業科・2年B組担任）

校 長：佐藤 武

教 → 教科指導等研修

生 → 生徒指導等研修

実施月日 (曜日)	研 修 内 容	研修方法・形態	全体・個別の区別	時間割内・放課後の別	研修時間	研 修 指 導 者
4/15(金)	10年研修の進め方	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	研修主任
5/6(金)	教育目標の達成と学校経営について	生 講義→一般研修	個別	内(3)・放	2	校長
9(月)	高校教育の現状と課題	生 講義→一般研修	個別	放	2	教頭
17(火)	法規に関する事例研究	生 講義	個別	放	2	教頭
18(水)	P T A・地域と連携について	生 講義→一般研修	個別	放	2	総務主任
6/8(水)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	2	商業科主任(教育実習生)
10(金)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	2	商業科主任(教育実習生)
13(月)	授業参観と助言	教 授業指導	個別	内(3)・放	2	商業科主任(教育実習生)
16(木)	授業参観と助言	教 授業指導	個別	内(4)・放	2	商業科主任(教育実習生)
17(金)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(6)	1	商業科主任
20(月)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(5)	1	商業科主任
22(水)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(3)	1	商業科主任
24(金)	授業実践に基づく授業研究	教 授業研究	個別	内(1)・放	2	商業科主任・科員
7/4(月)	教育課程の編成・教務内規について	生 講義→一般研修	個別	放	2	教務主任
5(火)	生徒分析と個人面談計画の作成	生 講義→一般研修	個別	放	2	学年主任
6(水)	個人面談実践に基づく研究	生 一般研修	個別	放	1	学年主任
21(木)	保健室利用の実態について	生 講義	個別	放	1	養護教諭
9/1(木)	東北六県商業教育研究大会参加	教 授業研究	全体	1日	6	主催者
2(金)	東北六県商業教育研究大会参加	教 授業研究	全体	半日	3	主催者
21(水)	生徒指導に関する事例研究	生 一般研修	個別	内(4)	1	生徒指導主事
30(金)	校内研修「アクティブラーニング」	生 講義	全体	放	3	外部講師
10/17(月)	部活動・生徒会活動に関する事例研究	生 講義	個別	内(5)	1	特活主任
26(水)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(3)	1	商業科主任
28(金)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(2)	2	商業科主任・科員
11/11(金)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(1)	1	商業科主任・研修主任
21(月)	授業実践に基づく授業研究	教 授業研究	個別	内(3)・放	2	商業科主任・科員
24(木)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	1	商業科主任(若手教員)
25(金)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	1	商業科主任(若手教員)
28(月)	授業参観と助言	教 授業指導	個別	内(3)・放	2	商業科主任(若手教員)
12/7(水)	特定課題研究の中間まとめ	生 一般研修	個別	放	1	研修主任
8(木)	校内研修「メンタルトレーニング」	生 講義	全体	放	2	外部講師
1/16(月)	選択研修の成果と課題	生 講義	個別	内(5)	1	校長
25(水)	進路指導の現状と課題	生 講義	個別	内(4)	1	進路指導主事
2/23(木)	特定課題研究の成果と課題	生 一般研修→講義	全体	放	2	校長以下全員

実施日数 合 計	研修方法・形態別の研修日数 (時間数)				時 間 割 内 研修時間計 (a)	放 課 後 研修時間計 (b)	研 修 時 間 合 計 (a + b)
	講 義	授業研究	授業指導	一般研修			
34	14 (18)	10 (20)	7 (12)	10 (10)	28	32	60

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 櫻 庭 咲 子
研 修 先	株式会社 花		
研 修 期 間	平成28年 8 月 8 日（月） ～ 平成28年 8 月10日（水）		

1

研修の概要

1 日目は大館市陣場にある株式会社花、2 日目は大館市十二所にある株式会社花千歳館というデイサービス施設で、3 日目は大館市長倉にある株式会社花マザーパレス大館というサービス付き高齢者住宅で、8 時～17 時まで研修を行った。

デイサービス施設ではお客様の送迎や施設の清掃を行うとともに、食事の準備やレクリエーションの進行・後片付けなどを行い、サービス付き高齢者住宅では入所者の部屋の清掃や洗濯、食事の準備だけではなく、裁縫やチラシを使った紙の入れ物づくりを一緒に行うなど、介護施設の様々な仕事を体験した。

さらに、3 日間で約40 名の高齢者の方と接することができ、要支援・要介護の度合いに応じた介護の仕方を体験することができた。

2

研修の成果

朝礼から参加したが毎日15 分程度、当日の予定確認だけではなく、企業理念やセブンアクトという心構えなどの文書を唱和し、企業倫理や仕事への活力が養われるように取り組んでいることに大変刺激を受けた。

普段は教員として高校生と関わっているが、この研修を通して普段は接することができない高齢者の方と触れ合うことで、言葉遣いや立ち居振る舞い、周囲への気配りなどの大切さを再確認することができた。また、介護施設で働くヘルパーや社会福祉士、看護師などの仕事を体験し、高齢者が日常生活を安全に、そして体にあまり負担をかけないように送れるように細心の注意をはらいながら介護を行っていることを実感することができた。

さらに、研修を行った株式会社花ではデイサービスを利用する高齢者の施設での様子をカメラで撮影し、コメント入りのアルバムを作成して、帰りに各家庭に持ち帰ってもらい、家族の方にも1 日どのように過ごしたのかが分かるように配慮していた。このようなきめ細かいサービスを提供することで、利用者だけでなく家族の方にも安心してもらえるため、とても良いサービスであると感じるとともに、学校現場でも学級通信で生徒の様子を家庭に伝えることの意義を改めて感じる事ができた。

3 日間という限られた期間ではあったが、この研修を通して実際の介護施設の業務に触れ、また職員や高齢者の方ともたくさんお話をさせていただくことができ、大変有意義な時間であった。この研修で学んだことを今後の教員生活に活かし、生徒一人ひとりに気を配りながら、保護者の方とも良好な関係を築いていきたい。

特定課題研究レポート

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 櫻 庭 咲 子
研 究 分 野	A 教科指導 Ⓐ 学級・学年・学校経営 C 生徒指導 D 進路指導 E 特別活動に係る指導 F 総合的な学習の時間に係る指導 G 特別支援教育に係る指導 H その他		
研究テーマ	学習習慣の定着と基礎学力の向上		

1

研究の概要

本校では平成26年度より基礎学力向上テストを実施している。これは、企業の採用担当者から高校卒業程度の基礎学力や計算力に欠けるという指摘を受けたり、指定校推薦や公募推薦で合格した生徒に対して、入学前に基礎学力定着を目指した課題を課す大学が増えたりしているため、進路指導部から提案されたものである。目的は「基礎学力の向上と学習習慣の定着」であり、国語・数学・英語・商業の4教科で各4回、計16回の基礎学力向上テストが行われている。平成26・27年度は合格点は設けずに実施したが、年度末の反省と課題で学習習慣を身につけ、基礎学力を向上させるためには、合格点を設定し、不合格者に対して事後指導を行っていく必要があるという意見が出たため、平成28年度からは7割という合格点を設定している。

これを受け、生徒たちの進路希望を実現させるためには、学習習慣を身につけ、基礎学力を向上させる必要があるため、担任として生徒が基礎学力向上テストに向けて意欲的に取り組む方策を考えると同時に、テストに向けて事前指導を行うことにした。

2

成果と課題

学習習慣の定着と基礎学力の向上を目指して、各教科のテスト範囲を確認して家庭学習用のプリントを作成し、事前に提出させることで理解度を確認した。また、家庭学習プリントを提出させた後に確認テストを行い、理解度の低い生徒に対してはさらに演習用のプリントを用意した。さらに、基礎学力向上テストの結果については進路指導部より全校の各クラスの合格者数や合格率、平均点などが一覧表として教室掲示されるが、保護者に対しても学級通信を活用して結果を報告し、保護者にも基礎学力の定着度を把握してもらった。なお、生徒に対しては教室に基礎学力向上テスト成績一覧表を掲示し、合格者には「大変よくできました」のシールを貼って、努力の成果を視覚的にあらわし、達成感を味わってもらうとともに、次回のテストに向けての意欲を助長するように心がけた。

その結果、これまでに行われた12回の基礎学力テストの結果は同学年の他クラスよりも良く、進路実現を目指して努力している3年生よりも平均点や合格率が高かった。生徒は「同じ進路希望の友達よりも良い点数をとりたい」「全てのテストで合格したい」など一人ひとり目標を立てて、計画的に家庭学習に取り組んでいた。しかし、クラスの中には努力が結果に結びつかない生徒や努力不足の生徒もいるため、これからも継続して指導していく必要がある。また、基礎学力の有無については来年度、生徒が希望する進路を実現できた時に本当の成果が検証されるため、今年度の反省や課題を踏まえて改善を図るとともに、来年度は新たな方策を実践していきたい。

(A 4判1～2枚程度、研究にかかわる資料等があれば添付すること)

平成28年度 研修対象者・研究会等参加者一覧

【センター研修】

◎A講座（基本研修講座）該当者全員が受講する研修

11 5年経験者研修講座	佐々木絵里	①6/15 ②9/2
16-A 授業力向上研修講座（8年研）	小西 一幸	10/3・4
20 10年経験者研修講座	菅生あずさ 櫻庭 咲子	①6/23 ②8/4 ③9/8 ④10/18 ⑤1/12
26 新任教頭研修講座	加藤雅人教頭	5/19・20
31 新任学年主任研修講座	佐々木ひな子	①5/12 ②6/30

◎B講座（専門研修講座）学校割当てに基づいて受講する研修

7 高等学校保健体育科授業の充実	佐藤 寛仁	7/6・7
16 生徒指導総合研修講座	高橋 伸友	①6/21 ②10/21

◎C講座（専門研修講座）自主的に受講する研修

26 教育相談に生かすカウンセリングの技法	大関 由理	11/9
33 高等学校講師研修講座	小山 壘	①6/10 ②9/15

※免許更新開始 保坂徹・工藤裕文・園部晋士・佐藤俊平

【中高連携関係】

小・中・高・特別支援学校連携協議会（勝平中学校授業参観）	加藤雅人教頭 泉 広宣 千田 義人 佐々木ひな子 大久保 薫 守屋 大 大関 由理	5/11
勝平中学校授業参観・各教科協議会	千田 義人 小西 一幸 亀田 拓朗 大関 由理	11/10
勝平中学校2年生商業科目授業体験（授業者）	佐藤 和佳 柏谷亜紀子 保坂 徹 菅原 健太 石井 洋年	2/14

【秋田県高等学校教育課程研究協議会】

国語	近野 祥子	8 / 4 国際教養大学
地歴・公民	今 聡	8 / 4 国際教養大学
数学	野呂耕一郎	8 / 5 生涯学習センター
音楽	池田 孝幸	8 / 8 自治研修所
家庭	佐々木ひな子	8 / 5 生涯学習センター
商業	佐藤 和佳	8 / 4 国際教養大学

【商業科】

全国商業教育研究大会（発表）	石田 雄哉	8 / 2 ～ 4 島根
----------------	-------	--------------

【英語科】

外国語活動・英語担当教員指導力向上研修	石塚 禎子	5 / 25 ・ 7 / 26 ・ 10 / 31
---------------------	-------	---------------------------

【その他】

2016年度N I E 研究会	近野 祥子	11 / 16
秋田県教育研究発表会	藤中 由美 大関 由理	2 / 10

合計27名（延べ37名）

編集後記

研修部員から

有意義な研修となるように、研修部の先生方で知恵を出し合い、熱く話し合っ、様々な研修行事が成り立っていることを実感した1年でした。研修に参加するだけでなく、こうして集録に記録しまとめることによって、研修内容がより定着し深い理解へつながると思います。

石塚 禎子

研修部での1年間は、改めて教員が自ら学ぶ姿勢を持ち、目の前の生徒との関わりの中から学ぶだけでなく、外部からの情報や現状を分析し、生徒に還元する必要性を痛感しました。自分自身が学ぶ姿勢を忘れずに、そしてその姿勢を生徒に伝えられるように今後もがんばっていきたいです。

柏谷亜紀子

生徒を正しい方向に「変える」ことが指導だと思う。「変える」ためには、教師側が学び続け、自分自身を高め続けることが重要だ、と今年も学んだように思う。

小林 克

学んで発信するの繰り返しが日々。学ぶことは私たち教員にとって、必要不可欠なことなのだと思います。

大久保 薫

教育公務員特例法第21条「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」本校は商業高校です。最近ではビジネスという言葉に置き換えることがあります。商業高校の生徒は常に最新の情報に敏感にならなければいけません。「ビジネスチャンスを掴む力」を身につけさせるためには、我々教員も最新のことを学び続ける必要があると思います。今年度研修部の一員として様々な研修に携わってきてより一層強く「学び・研修」の大切さを感じました。

小西 一幸

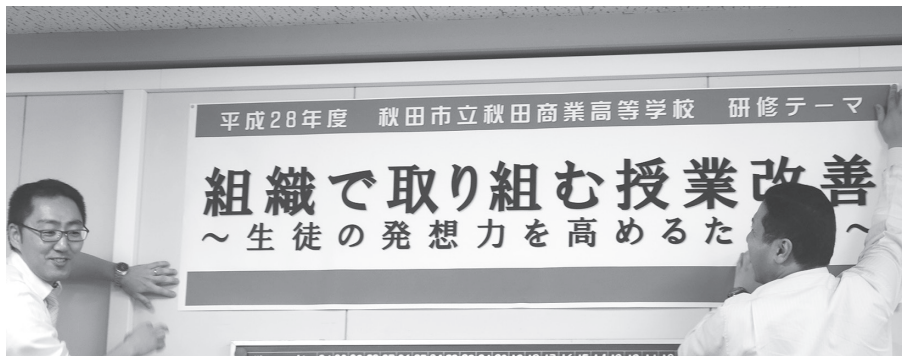
初めての研修部でたくさんの経験をさせていただきました。今後も積極的に研修に励んでいきたいと思っています。

石井 洋年

データ化されていた『研修集録』。読んでもらうためには、冊子にした方がいいのでは、と考えていたとき、一番に賛同してくれた先生がいました。冊子に戻して今年で5年目。そろそろ内容の見直しが必要かなと思っていた矢先、またもやその先生から、「物事は3年が一区切りですよ」と言われました。そして、授業公開週間に関連づけて授業紹介の記事を寄稿してくれました。……一区切りつけるところからもう2年過ぎてしまいました。新たな風を取り込まなくては、と思っているところです。どうかご協力ください。

最後になりましたが、本集録に寄稿・協力してくださった方々、そして、読んでくださった方々に心より感謝申し上げます。

大関 由理



平成28年度 研修集録

発行日 平成29年 3 月31日

発行者 秋田市立秋田商業高等学校

〒010-1603 秋田市新屋勝平台 1 - 1

T E L 018-823-4308～9

F A X 018-823-4310

印刷所 株式会社フロム・エー

題字・校訓揮毫 熊谷 弘(旧職員)



校 訓

感謝
勤勉
鍛鍊